

An abstract painting featuring various colored leaves (red, orange, green, yellow, white, and dark grey) scattered across a vibrant blue background. The leaves are rendered with soft, painterly textures, and the blue background has visible brushstrokes and a slightly distressed, hand-painted appearance.

東北大学学生・院生の 男女共同参画に関する意識

平成15年10月23日-11月7日実施

調査結果報告書

平成16年3月

東北大学男女共同参画委員会

東北大学学生・院生を対象とした「男女共同参画に関する意識調査」の集計結果について

男女共同参画委員会では、東北大学における男女共同参画の現状の自己評価、並びに男女共同参画推進に必要な啓発活動に関する方針策定の参考にするため、人的構成の比率に限らない、より広い意味での男女共同参画に関する意識調査を進めている。一昨年度と昨年度に実施した全教職員と非常勤職員を対象としたアンケートに引き続き、今年度は大学構成員として一翼を担う学生・院生を対象にしたアンケート調査を平成 15 年 10 月 23 日（木）から 11 月 7 日（金）の期間、実施した。以下に、調査結果について述べる。

(1) 回答者の構成について (Q1-Q3)

回答者数は男性 2828 人（75%）、女性 960 人（25%）、無記入 14 人で総計 3802 人である。学年別では学部 4 年生（以上）と修士 1 年生が最も多く、部局別では工学部・研究科で最も多く、理学部・研究科が続いている。在籍者に対する回答率は全体では 21.8%で、女性の回答率が男性より高い。学年別の回答率は男性、女性とも修士課程で高い。所属部局別での回答率は文科系より理科系で若干高い。

(2) 男女共同参画・ジェンダー学について (Q4-6)

a. 男女共同参画という言葉について、回答者の 53%が「聞いたことがある」と回答した。これは教職員、非常勤職員対象のアンケート結果（それぞれ 60%、68%）に比べ、高くない。男女別に比較すると、女性の方が男性より認識度は高い。学年別では、修士・博士課程所属で認識度が高く、所属部局別では理科系より文科系で高い傾向にある。

b. 全学教育で開講されている「ジェンダー学」について、回答者の 22%が知っており、78%は知らない。学年別では、学部 1、2 年生で認識度が高く、また、所属部局別では理科系より文科系で認識度が高い傾向にある。

c. 「ジェンダー関連科目」の受講について、「受講する（した）」と回答したものは全体で 8%、「受講しない」と回答したものは 63%であった。

受講する理由としては、興味がある（あった）が最も多く、また文科系及び生命科学所属では専攻分野との関連を挙げている。

受講しない理由としては、全学年を通じて、興味がない、時間がないことを挙げている。また、低学年では希望したが抽選に漏れた、高学年では必要単位を取得済みであるとの理由の他に、以前は開講されていなかった、開講を知らなかった、全学教育であるため制度上受講できないなどを挙げている。また、男女共同参画の活動に対する疑問を理由とする回答もある。

(3) 男女差別について (Q7-9)

a. 大学入学以前の男女差別について、「しばしばあった」、「あった」ないし「感じた」と回答したものは 625 名（17%）であった。所属部局別では文科系で理科系より高

い傾向を示している。その内容として、女性は「家庭での進路決定」、男性では「中学・高校での進路指導」を挙げている。

記述された具体的事例（176 件）の中では、女性は「進路指導」と「家庭生活」、男性は「学校生活」での差別を述べている。特に、女性は大学への進学に関して周囲からの反対、進路決定に関する助言の少なさや、学校での「女子学生対象の推薦入試があるという名目で志望外の大学をすすめられ、東北大の推薦に他の男子学生をあてがうことをされそうになった。」などの不明朗性を挙げ、生活面では家庭での「らしさ」の強要や役割分担を、一方、男性では学校生活での男女の役割分担や女性優遇を記している。

b. 大学内での男女差別について、「しばしばあった」、「あった」ないし「感じた」と回答したものは 596 名（16%）であった。それは高学年になるほど若干増加する傾向がある。その内容として、「授業」、「クラブ活動」、「アルバイト紹介」を挙げている。

記述された具体的事例（211 件）を分類すると、男女とも「授業」と「クラブ活動」について述べている。学年別に見ると、高学年ほど「授業」での問題を、また、理科系では「トイレ」の問題を指摘している。記述された例では、授業中の「女性優遇」、「女性差別発言」や「セクハラ」、アルバイト紹介での男女限定募集、クラブ・サークル内での役割分担や発言、「トイレ」の不足などがある。

c. 研究室での差別について、「しばしばあった」、「あった」ないし「感じた」と回答したものは 237 名（6%）であり、高学年になるにつれて若干増加する傾向がある。

記述された具体的事例（141 件）は「研究室内での役割分担」、「差別的発言」、「研究指導」、「設備」、「ハラスメント」に分類される。特に、女性からは「研究指導」について、一方、男性からは「ハラスメント」に関する問題が記されている。記述された例では、来客へのお茶出しや研究会受付などの女性への依頼、「女だから、女のくせに、男だったら」のような言葉遣いや差別的発言、女性に対する優しい指導と反面、男性に対する厳しい指導、女性の研究室への配属人数制限と女性への研究指導の甘さ、更衣室の不備、セクシャルハラスメントとアカデミックハラスメントの厳しい状況などがある。

(4) 就職・進学について (Q10-11)

a. 進路決定において男女差別の有無や性別について、「考慮する」、ないし「考慮した」と回答した男性は約 30%、女性は約 70%であった。その回答率は女性では、学年や所属部局にあまり依存していないが、男性では文科系に所属される方が高く、また、理科系の医療短大と歯科技工でも高い値となった。後者は当該分野での女性の進出が進んでいることに起因すると思われる。

「考慮しない（しなかった）」と回答した場合の記述理由（1019 件）を分類すると、男性では「男女差別の問題を意識しなかった」、「進路決定には男女差は関係ない」、「男性に不利益はない」が、女性では「希望の分野には差別が存在しない」と「自分の希望を優先した」が多い。具体的記述例では、「理系ならば、より実力主義で差別は少ないと考えた」、「夢の実現の前にはたいした問題ではない」、「女性優遇が心

配」、「女性差別はあっても、男性差別というのはほとんど聞いたことがない」、「考慮するほどの切実な問題に出くわしたことがない、日本はそれほど住みにくくない」などがある。また、「質問の意味がよく分からない」との記述もあった。

「考慮する（した）」との回答にはその理由の記述を求めなかったが、28 名から記述があった。その一例を次に示す。「男女差別の有るところでは自分のやりたいことがのびのびとやることができないと思うので考慮し、男女差別のないところに進路をきめたい。」

b. 最終学年の方に伺った進学・就職試験での男女差別について、「非常にあった」、「強く感じた」、「あった」、「感じた」との回答は男性 86 名（7%）、女性 66 名（22%）であった。特に、女性からの高いパーセンテージでの回答が注目される。

記述された事例（130 件）は「求人情報・応募」、「会社訪問・説明」、「面接を含む試験」、「最終結果」、「その他」に分類される。具体的記述例では、男子希望者への優先連絡、面接試験を受けさせてくれる会社の少なさ、会社説明会での「女性でも...だから大丈夫」等の言及、面接試験での「結婚したらやめますか。」等の質問、「女の子」等の発言や男女での対応の差、選考時の男女比と内定者の男女比の格差、などがある。また、その他として、「コンビニの夜勤はどうして男性のみなのか、ナイフで脅かされたら男も女も同じではないか」、「男女共同参画のせいで女が優遇される」、「女性というのが一つの個性として相手に映るよう心がけた。男女を平等に見ようとしすぎて違いを無視してきているようにもみえた。男性が子供を生む時代は少なくともまだだろうと感じた。」などがある。

(5) 東北大学における男女共同参画の推進について (Q12-13)

a. 東北大学における男女共同参画の取り組みについて、「推進すべきである」との回答は 58%（男性 55%、女性 67%）、「現状のままでよい」は 32%（男性 35%、女性 25%）、「推進する必要はない」は 5%（男性 6%、女性 2%）であった。学年別では、推進すべきであるとの回答は男性ではほぼ一定であるが、女性では高学年になるほどが増加する。理科系に所属する男性では文科系に較べると、推進すべきであるとの回答が少なく、現状のままでよい、ないし推進する必要はないとの回答が多い。

この質問に対する回答を他の質問への回答との関係を調べると、Q4 の男女共同参画について「聞いたことがある」と回答した場合、「ない」場合に較べ、推進すべきであると回答した率が高く、また、Q6 のジェンダー学を「受講する（した）」と回答した場合は「受講しない」場合に較べ、推進すべきであると回答した率が高い。同様に、Q10 の進路決定に「男女差別を考慮する（した）」と回答した場合も「考慮しない（した）」場合に較べ、推進すべきであると回答した率が高い。

「推進すべきである」と回答した場合の記述理由（1106 件）は、「男女共同参画に賛同する」、「男女差別の解消」、「東北大学の使命」等に分類される。具体的記述例では、「現状は悲惨である」、「性別で何かを諦めることをしてほしくないから」、「男女差別を感じなかったというのはないと思います。なれているからそれを差別ではないと思う人もいるでしょう。やはり推進すべきだと思います」、「若いうちから男女共同参画に対する意識を養わなくては、身につかないから」、「アンケートで、は

じめて取り組みについて知ったので、もっと多くの人に知ってもらう必要がある」などがある。

「現状のままでよい」と回答した場合の記述理由（588 件）は、「男女差別の問題は存在しない」、「逆差別を招く」、「大学の取り組むべき課題ではない」、「興味がない・何が問題か分からない」等に分類される。具体的記述例では、「現状で、女性の進出を積極的に阻むような障害は特にはないと思う」、「あまりやりすぎると「平等」ではなく「保護」になる。それも差別の一つだと思うから」、「個人の資質の問題であり、大学で進めるという問題ではない」、「やりたい人がやればよい、自由に」などがある。

「推進する必要はない」と回答した場合の記述理由（133 件）は、「男女差別はない」、「男女差別・区別は当然」、「男女共同参画を否定」等に分類される。具体的記述例では、「現状でも女性は十分に能力を発揮しているため」、「女に学問の必要なし」、「いちいち気にするなかれ、かっこつけるな」、「わざわざ委員会なんて作っても何も改善されるとは思えない。金の無駄」、「そのように言うこと自体が男女差別につながるし、男性よりも女性のあまえによって消えることはないと思うから」などがある。

b. 男女共同参画推進のために大学として優先的に取り組むべきことについて(6 つの選択肢から 2 つを選択)、男性・女性ともに「セクシャルハラスメントの防止の徹底」、「将来設計に関する相談窓口、相談機構」、「女性用トイレ、更衣室、休憩室の設置」を多く選択した。特に、「セクハラ防止の徹底」は学年、所属部局を問わず、高い率で選択された。また、文科系からは「ジェンダー学・ジェンダー教育の実施」について多くの要望が出された。

具体的要望（263 件）では「セクシャルハラスメントとともにアカデミックハラスメント（パワーハラスメント、ボスハラスメント）の防止」、「男性用と女性用ともにトイレの整備・拡充と更衣室、休憩室の設置」、「子育てと研究の両立支援対策」、「教官へのジェンダー教育の必要性」などの他に、「男女共同参画の進め方」、「男女の相互理解の必要性」などもあった。さらに、当委員会や当アンケートへの苦言もあった。具体的記述例では、「セクハラ防止も重要だと思います。だけど、それよりもアカハラの方がひどいです。もう耐えられません」、「更衣室、休憩室を設置するのであれば、男子用女子用共に設置すべきである」、「ジェンダー教育に関しては「教える」のではなく「議論する」形が望ましいと思う」、「やはり男性教官が多いため、女子学生にとって色々と相談できる環境を整えるべき」、「女性のための子育て支援も進めてほしい。シングルマザーでも対等に働ける環境を作るなど」、「研究室においては、指導教官の認識の差異による格差が依然として存在している様に思われる」、「男女共同参画促進やジェンダーフリーを善と決め付ける事なく、悪い面も含め多面的に議論を行う事が必要である。社会の風潮に追従するだけでは、大正時代に世間に逆らい女子学生を受け入れた東北大学の理念に反するのではないか?」、「女性が大学全体でマイノリティーにならないよう根本的な議論が活発になるようにすべき」、「このアンケートとること自体、ある意味男女差別といえないだろうか」、「大学の研究の素晴らしさをアピールして女性にも魅力的に映る大学像を構築すべき」

などがある。

(6) まとめと今後の課題

今回実施した学生・院生に対する男女共同参画の意識調査から、(1) 学生・院生の男女共同参画という言葉の認識度が 53%であり、またこのアンケートではじめて知ったなど、これまでに行った教職員に対する結果に較べるとその認識度は高いとは云えないこと、(2) 男女差別の現状について、学生・院生の皆様から一部であるが、学内外における男性・女性に対する差別的発言・行為やハラスメントに関して厳しい状況が指摘されたこと、(3) 東北大学における男女共同参画についていっそうの推進を支持するものが約 58%であり、その優先的課題としてハラスメントの防止や将来設計に関する相談窓口・機構の設置を求められていること、(4) しかしながら、男女共同参画の推進が逆差別を招く、男性の既得権を侵すなどの危惧や誤解に基づく意見もあること等の実態が判明した。

これらの貴重な意見を踏まえ、当委員会は男女共同参画の啓発活動を推進し、それに関する正確な認識と理解・納得が得られ、実効あるものとすべく邁進しなければならないことを強く認識した。また、学内における差別的発言・行為やハラスメントに関する指摘と要望を厳しく受け止め、東北大学教職員へ周知・徹底するとともに学生相談所との連携により緊急に解決を図る必要性を認識した。

実態調査 WG 報告
平成 16 年 2 月

男女共同参画に関する意識調査

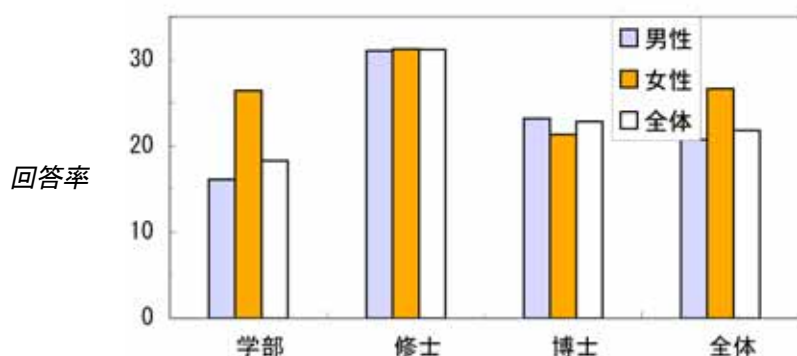
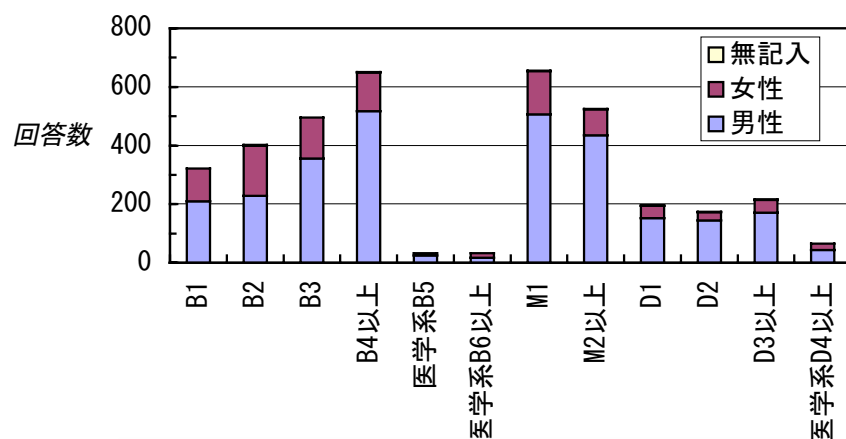
注意： 各質問について、番号を一つ（問い13は二つ）選ぶ、ないし記述してください。

1. 学年をお答えください。
 (01) B1 (02) B2 (03) B3 (04) B4 以上 (05) 医学系 B5 (06) 医学系 B6 以上
 (11) M1 (12) M2 以上 (13) D1 (14) D2 (15) D3 以上 (16) 医学系 D4 以上
 (選択番号))
2. 所属の学部ないし研究科をお答えください。
 (1) 文学 (2) 教育 (3) 法学 (4) 経済 (5) 理学 (6) 医学 (7) 歯学 (8) 薬学
 (9) 工学 (10) 農学 (11) 国際文化 (12) 生命科学 (13) 情報科学 (14) 環境科学
 (15) 教育情報 (16) 医療短大 (選択番号))
3. 性別をお答えください。
 (1) 男性 (2) 女性 (選択番号))
4. 本調査以前に「男女共同参画」ということばを聞いたことがありますか？
 (1) ある (2) ない (選択番号))
5. 全学教育において「ジェンダー論」が開講されていますが、ご存じですか？
 (1) 知っている (2) 知らない (選択番号))
6. ジェンダー学などのジェンダー関連科目を受講しますか（しましたか）？
 (1) する（した） (2) しない (3) わからない (選択番号))
 「する（した）」または「しない」場合、よろしければその理由を書いてください。
 受講する（した）理由 ()
 受講しない理由 ()
7. 大学入学までに、男女による差別を受けた経験がありますか、または差別を感じたことがありますか（例えば、家庭、高校における進路指導など）？
 (1) しばしばあった (2) あった (3) 感じた (4) なかった (5) わからない (選択番号))
 「あった、感じた」とお答えの場合、以下から選ぶ、ないし具体的に記述してください。
 (1) 家庭での進路決定 (2) 中学・高校での進路指導、 (選択番号))
 (記述欄))
8. 東北大学において男女差別の経験（授業、クラブ活動など）がありますか、または差別を感じることはありますか？
 (1) しばしばある (2) ある (3) 感じる (4) ない (5) わからない。 (選択番号))
 「あった、感じる」とお答えの場合、以下から選ぶ、ないし具体的に記述してください。
 (1) 授業 (2) 奨学金申請関係 (3) アルバイト紹介 (4) クラブ活動 (選択番号))
 (記述欄))
9. 研究室（又はゼミナール）所属の方：研究室（又はゼミナール）で男女差別がありますか、それを感じることはありますか？
 (1) しばしばある (2) ある (3) 感じる (4) ない (5) わからない (選択番号))
 「ある、感じる」とお答えの場合、具体的に記述してください。
 (記述欄))
10. 今後の進路決定において、男女差別の有無や性別を考えることがありますか？または実際に進路決定の際に、男女差別や性差を考慮しましたか？
 (1) 考慮する（した） (2) 考慮しない（しなかった） (選択番号))
 「考慮しない（しなかった）」とお答えの場合、具体的に理由を記述してください。
 (記述欄))
11. 最終学年の方：進学・就職試験において男女差別を受けましたか、または感じましたか？
 (1) 非常にあった (2) 強く感じた (3) あった (4) 感じた (5) 感じなかった
 (6) なかった (7) わからない (選択番号))
 「あった、感じた」とお答えの場合、具体的に記述してください。
 (記述欄))
12. 東北大学としての男女共同参画の取り組みについて、どのようにお考えですか？
 (1) 推進すべき (2) 現状のままでよい (3) 推進する必要はない。 (選択番号))
 その理由を書いてください。()
13. 男女共同参画促進のために、大学として取り組むべきことは以下のどれだと思いますか。以下の選択肢の中から優先順位の高いものを2つまで選んでください。
 1. 女性用トイレ・更衣室・休憩室の設置
 2. セクシュアル・ハラスメント防止の徹底
 3. ジェンダー学・ジェンダー教育の実施
 4. 学部生・大学院生へのロールモデル（将来像を描くときの見本）の提供
 5. 将来設計に関する窓口、相談機構 (選択番号))
 6. 特にない (選択番号))
 その他（具体的に書いてください） ()

アンケート集計結果

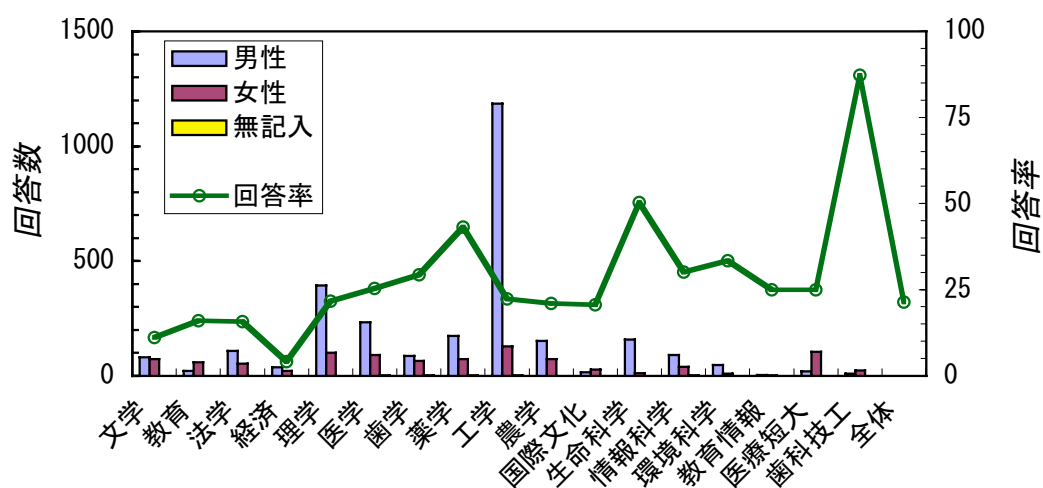
男性： 2828人 (75%)
 女性： 960人 (25%)
 無記入： 14人
 合計： 3802人

I. 基礎データ 学年



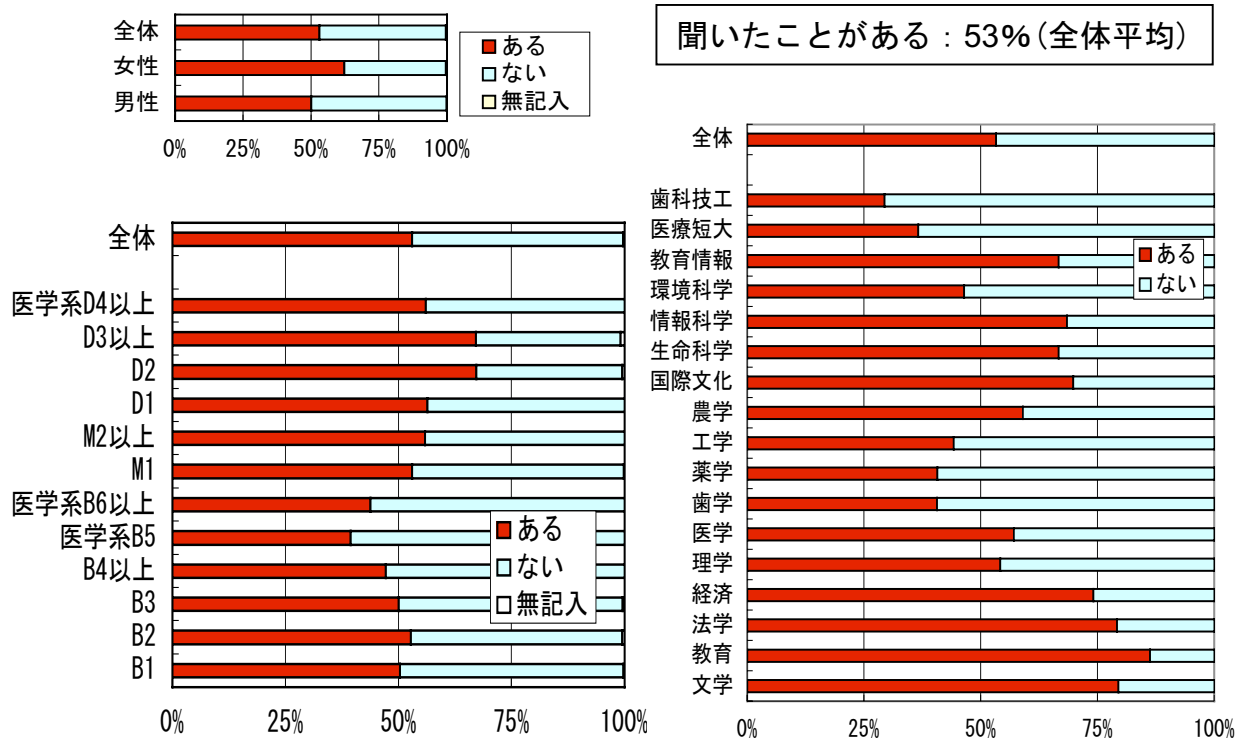
全体の回答率
21.8%

所属学部・研究科

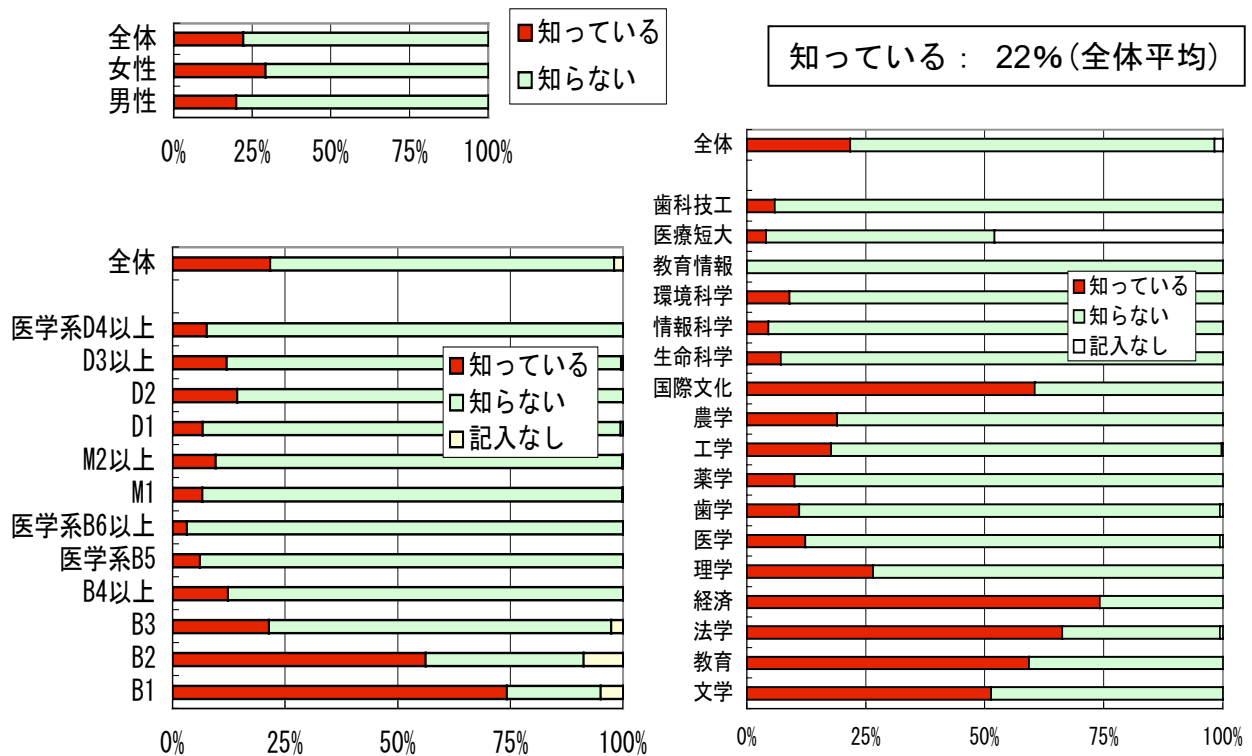


II. 男女共同参画・ジェンダー学について

1. 本調査以前に「男女共同参画」ということばを聞いたことがありますか？

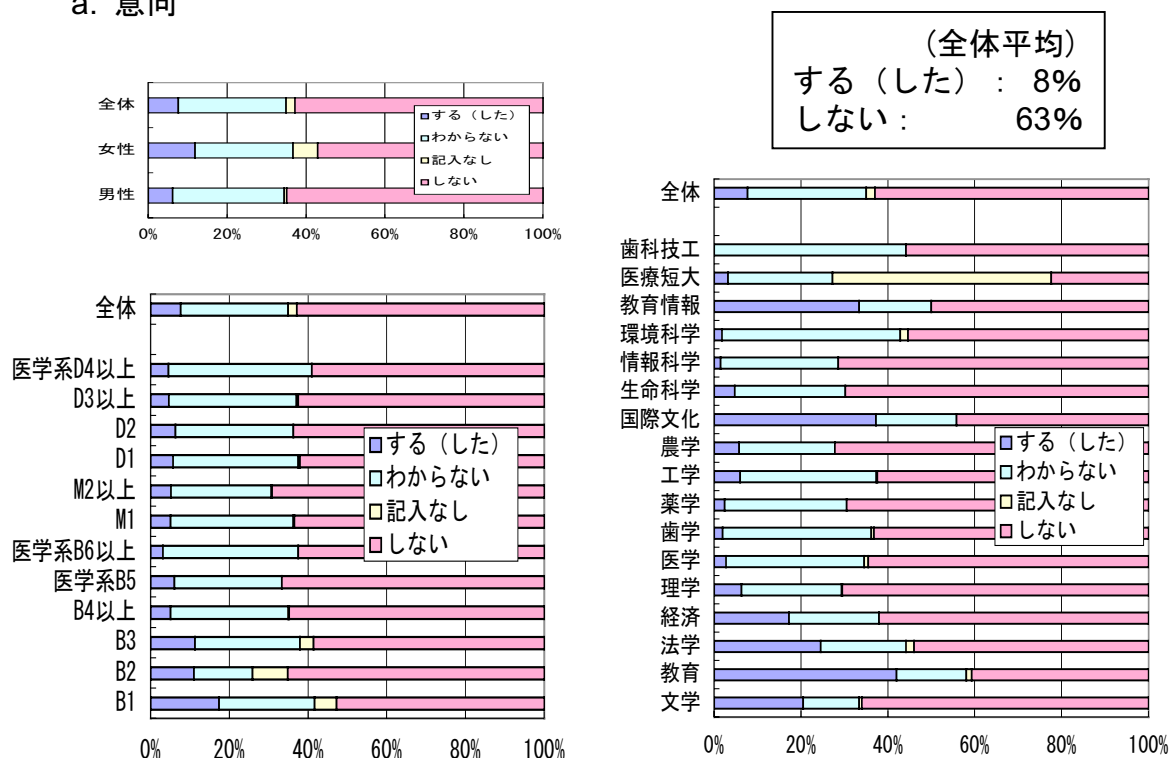


2. 全学教育において「ジェンダー論」が開講されていますが、ご存じですか？

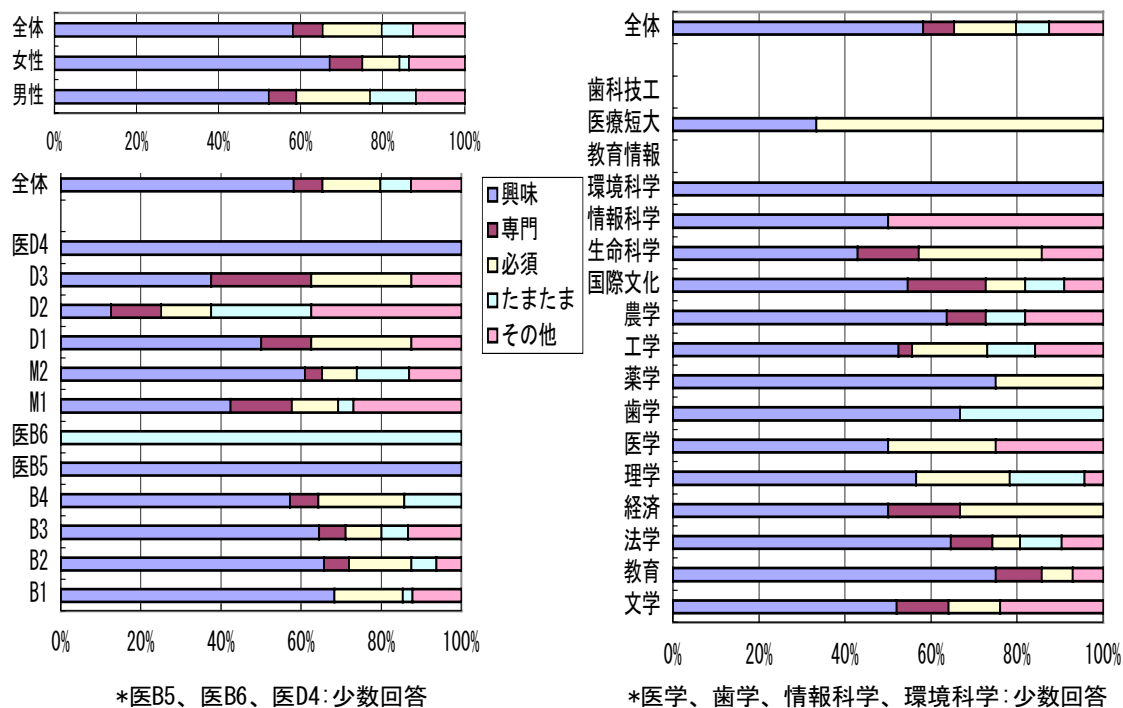


3.ジェンダー学などのジェンダー関連科目を受講しますか（しましたか）？

a. 意向



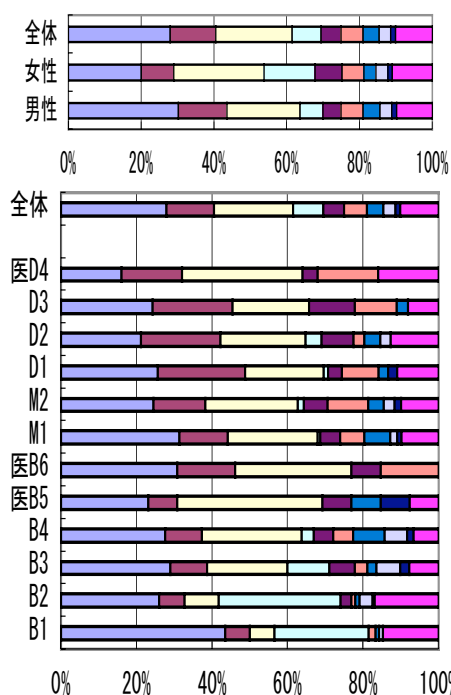
b1. 受講する（した）理由の記述（記述数：222件）



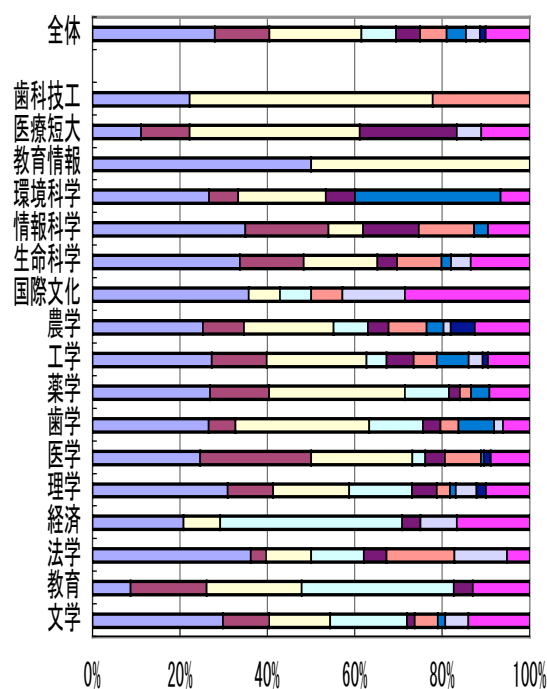
b2. 受講する（した）理由の具体的記述例

- *高校が女子高だったから、そういう授業をきいてみたかった
- *高校が男子校であったこともあって、社会での女性のあり方を学びたかった
- *「日本語にひそむジェンター表現」先輩がおもしろいといっていたから
- *大学に入って初めて聞いた言葉で現代社会についての最近はやりの言葉だから
- *女性として興味があったから。あまり差別を感じないが、本当のところを確かめたくて
- *女性差別について興味があったから
- *性差が生来のものか、社会的なものかによって生じるのか興味があったから
- *ジェンダー問題がどのように問題になり取り上げられたのかを知りたいしその解決を探る手段やどのように考えられているのかを知りたいから
- *男の社会である、またはそう言われている日本ではどのように展開されているか興味深い
- *家庭内ジェンダーについて興味があったから
- *心理学系に興味がありその関連科目として
- *ジェンダーを修論にえらんているから
- *家庭教育の研究に寄与する学問として、ジェンダー学に興味をもった
- *少年教育指導員の行務規定として存在する為
- *人権問題に興味があるため
- *教育関係の職に就きたかったから
- *必須科目の講義内容だったから
- *単位がましかったし、時間割がちょうどよかったから
- *英語の授業で1960年頃のアメリカのジェンダーにたまたま触れた
- *ゼミの論文にたまたま「ジェンダー論」が出てきた
- *性差をそのように捉える機会があまりなかったから
- *他大学で受けたこと有。人間関係がどうして良いか分からなかったため参考にしようと
- *東大の上野教授の本を読んで
- *他大学にはすごい授業として「女性論」などとしておかれている。東北大には置かれていないとして目立たない。もつと誰にでもよくわかるように
- *自分が社会に出たときに女性だから差別を受ける可能性があるため、知識を持っておきたかった
- *自分でも意識していない所でも実は性差別されていると知って
- *女を尊重しろという従来のジェンダー論とは違う気がしたから
- *女性として、女性に関する様々な問題を把握しておきたかった
- *是非を判断する前に「きちんとした情報知識を得る必要」がある
- *女性と一緒に仕事をする時に仕事が進むように理解する必要がある
- *男女の意識のギャップを補填するため

c1. 受講しない理由の記述（記述数：1600件）



- 興味なし
- 時間なし
- 知らなかった
- 時間割の制約
- 未開講
- 制度上の制約
- 内容不明
- 単位取得済み
- 遠方
- その他



c2. 受講しない理由の具体的記述例

- * 本で読む方が講義より自分にあっていてから
- * 受講したところで個人の考えに影響ない。結局他人（講義者）のうけうりに過ぎない
- * そのような授業を受けなくとも、男女平等でなければいけない、ということはわかっているから
- * 自分で勉強するから
- * 新聞で読んでわかるからよい
- * それなりの知識があるから
- * 興味は昔からあって、勉強する授業を受けるというよりも自分なりに考えていくものだと思うから
- * 単位をとる科目としては受講していないが、講演会などは聴いている
- * 講義として扱う問題ではない、常識の範囲
- * 教えられたくない。自分で気づきたい
- * いつでも男女共同であるとおもうからです
- * 別に今さらいわなくても当たり前だから
- * 講義をうけても意味が無いと思います。理念ではなく実社会で実践すべき
- * 受講する事だけが男女共同参画するための手段ではない
- * ジェンダー学はかつての女性論、女性史同様古くなりつつあり、ジェンダー学を敢えて取り上げる必要はない
- * 大学で受講したからといってどうこうできる程、話は単純でないと思う。むしろ大学が必至ならば必修にすべきだ。中途半端
- * 自分が知識を持ったところで周りが変わらなければ意味がないと思うから
- * 洗脳教育は受けたくないから、男性差別だし
- * 授業はためにならないと思うから
- * そういう学問のあるほうが不自然に感じるから

- * 文化人類の一コマだった
- * 他大学の教養時に受講した
- * 高校がジェンダー教育に力を入れていたから

- * 抽選にもれた
- * 受講する人が多かったため、他の科目を選ぶことにした
- * シラバスを読んで、女性が中心の授業だと考えた
- * 女性の権利ばかりを主張するような気がするから
- * 講義の内容のほとんどが女性差別のものばかりで教官の偏見ぶりを思わせるから。お茶女のジェンダー論とははるかに異なる
- * 食わず嫌いであろうが、****のような話を一年間聞き続けるのはしんどいだろうと思う
- * 一般的にジェンダー論と言いつつ、フェミニズム的な内容の講義が多すぎる
- * 最近のジェンダー論は女性が単にいいとこ取りしようとしているだけ。不利益も受け入れる強さというカッコよさがいいから

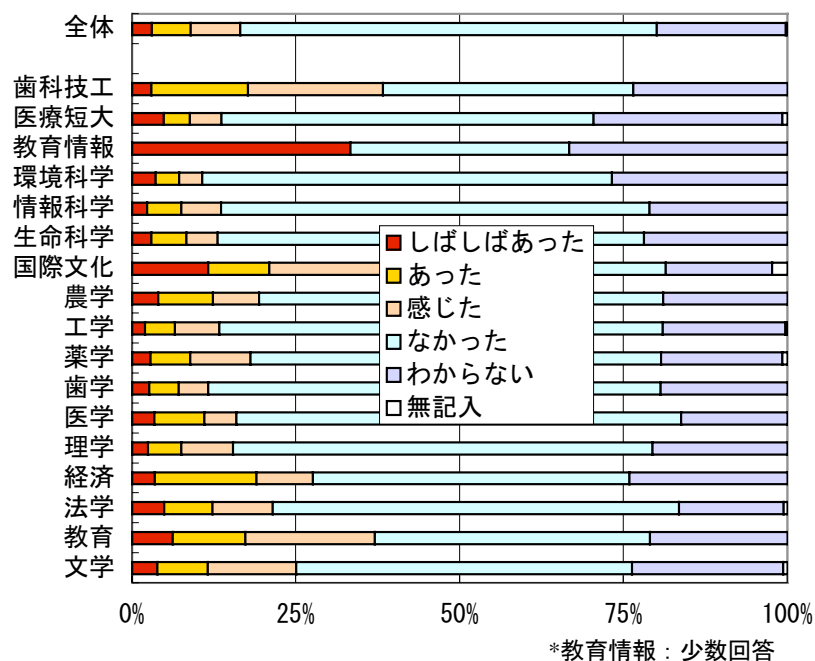
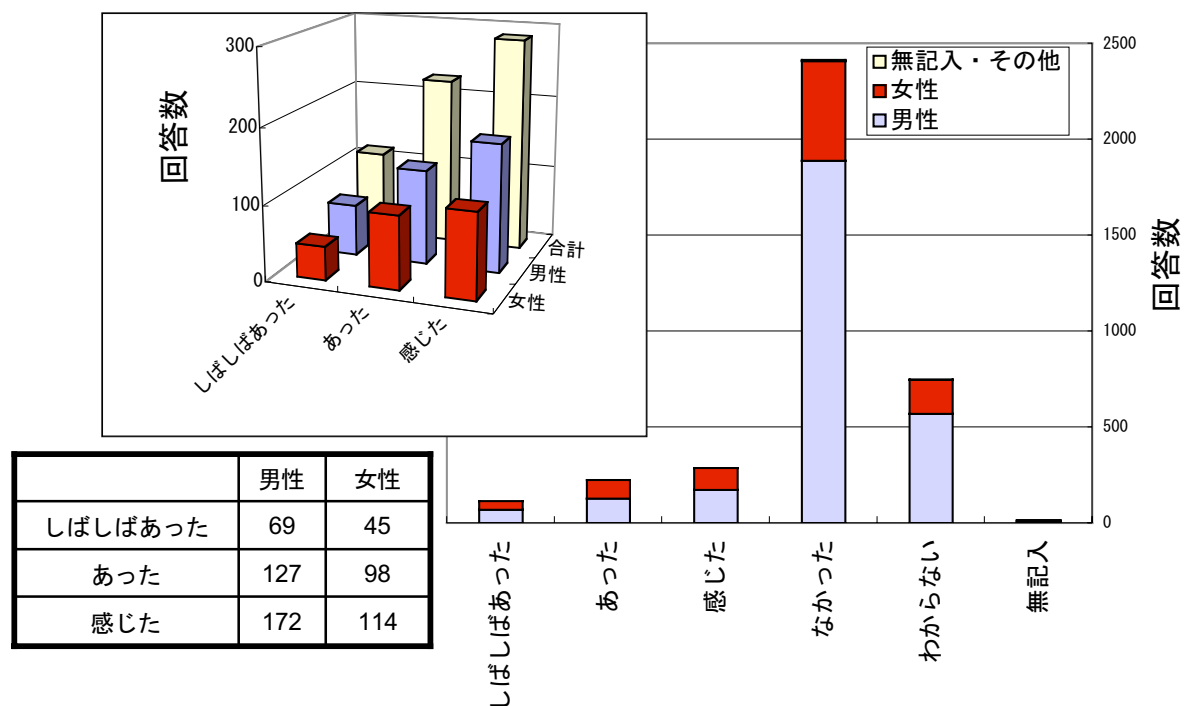
- * 世界中の全ての人間の心の安らぎである優しく、か弱く、守ってやりたいと考えるような生き生きとした女性像を否定するものだから
- * 体の作りが違うからそもそも性差別は解消されない
- * 男女の社会的役割分担の認識を否定するような動きに、疑問を感じざるを得ない
- * 自分の今の男女のあり方についての考えを変えるつもりはないから

- * ジェンダージェンダーと騒ぎすぎ
- * わざわざジェンダー平等と言っている時点でわざとらしく、平等と思っている感じがしない
- * 社会の状態を議論するのではなく、社会に役立つことを考える、創るべきだ
- * 面倒だ、自分は差別しなければいいと考える
- * 男女格差が存在しているとは思わないから
- * 男女差別をしているという意識がないから
- * 男女差別に関して自分がさほど悩むほどの嫌な扱いを受けたことがないため
- * 女家族の中で育ち、ジェンダーを感じることはないため
- * 左翼思想と結びついていて偏りがみられるため

- * 時間がない。ネットで掲載してください
- * ジェンダー論とは何か、また言葉、その意味を知らないから
- * 男女共同参画の意義がよくわからない
- * 所属研究科の専門分野に最低限必要ではないから
- * 研究室の上司が許さない

Ⅲ. 男女差別について

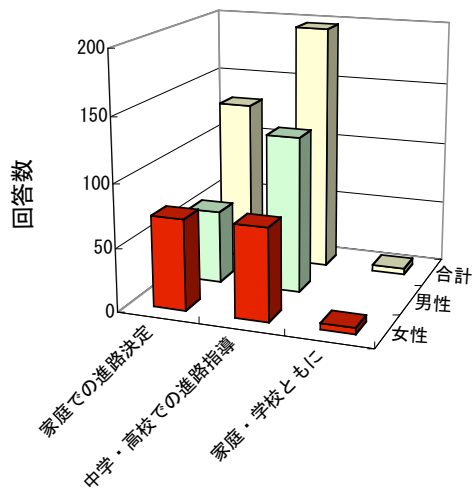
1a. 大学入学までに、男女による差別を受けた経験がありますか、または差別を感じたことがありますか（例えば、家庭、高校における進路指導など）？



(平均) (1) しばしばあった: 3% (2) あった: 6% (3) 感じた: 8%
(4) なかった: 64% (5) わからない: 27%

1b. 前記質問で「あった、感じた」とお答えの場合、以下から選ぶ、ないし具体的に記述してください。

(1) 家庭での進路決定、(2) 中学・高校での進路指導



	男性	女性
家庭での進路決定	58	72
中学・高校での進路指導	124	73
家庭・学校ともに		5

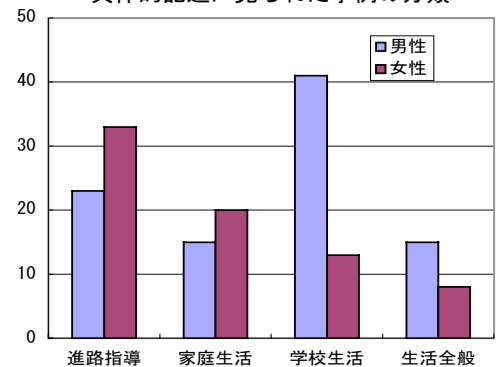
具体的記述（記述数：176件）

記述された事例の分類

具体的記述例

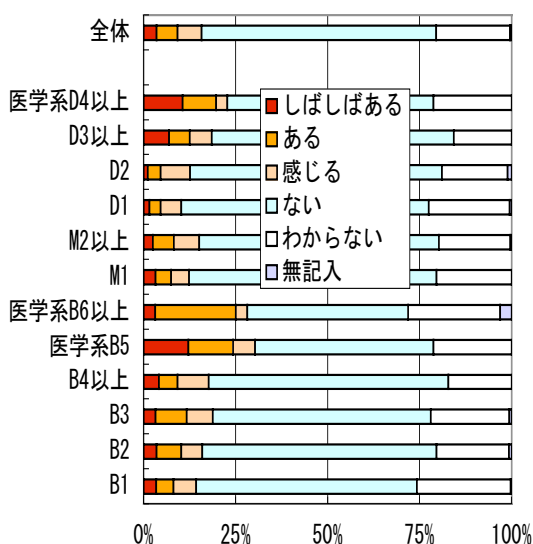
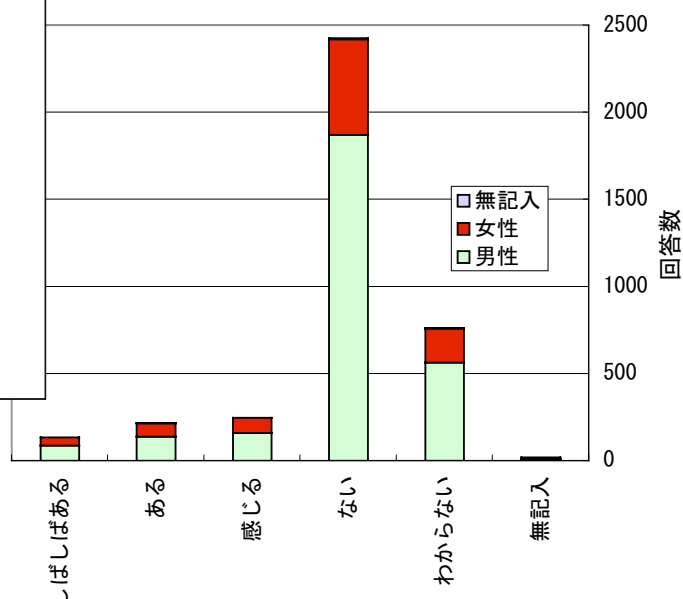
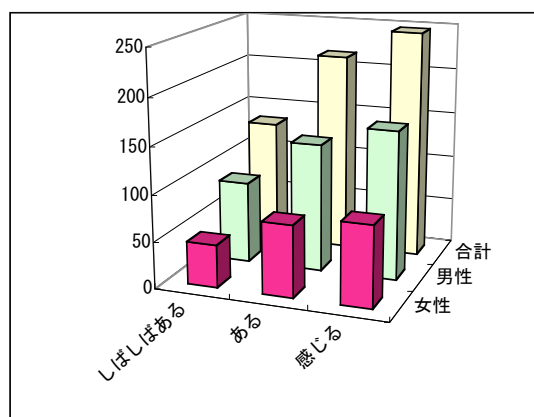
- *女性だから短大で良いというような指導がされていました
- *高専進学は女の子だから駄目だと両親に反対された
- *女性は浪人しないほうがよいと言われた
- *自分は一人暮らしを許可されたが、姉は駄目であった
- *「女で工学部に行くなんて、変わっている」と言われた
- *「女なのに勉強がんばってどうする」と
- *「女の子だから」浪人はよくないと言われた。
- *女だから大学院に行ってもムダだと言われた
- *女だから適当な高校に進めばいいと言われた
- *女だからと、進路が軽く考えられた気がした
- *女には学問は必要ないという考えの親戚に妨害されそうになった
- *女の子なのに大学まで行かなくていいだろうと言われた
- *女の子なのだから忙しい仕事には就くなと言われた
- *女の子は遠くの大学にいかないでほしい
- *高校進学時に共学に行くことに周囲から反対された
- *女子高にいくように（高校）すすめられた
- *女性は院に進むと就職できないから進学しない方がいいと聞いた
- *祖母は女が大学に行く（まして大学院）のは反対した
- *母親に大学進学をやめるよう言われた
- *進学の時、親戚に女の子はお嫁に行けばいいんだからと
- *長男なのだから家を継ぐために、将来を考えて進学しろ。近いところにしろ
- *弟は進路をよく考えるように言われていたにもかかわらず、女の子は結局家庭に入るのだから好きなことを大学で学んでよいと言われた時
- *決定には結果的に関係ないが、助言として兄と差はあったと思う
- *奈良県の国立大の文学部で学びたかったが、女子大で受験できなかった
- *入学定員に男女差があった（今は無い）
- *女子学生対象の推薦入試があるという名目で志望外の大学をすすめられ東北大の推薦に他の男子学生をあてがうことをされそうになった
- *A0入試での合格者で女子が多いと感じた
- *一番の大学進学校が男子校だった
- *出身県内に男女別学の学校が多かった
- *大学入試の面接において
- *共学高校であったのに男女枠募集女子は3分の1だったから
- *私が住んでいた市では普通高校は2つしかなく、そのうち1つは女子高だったので、男子のほうが進路の選択の幅が狭いと感じました
- *進学校の高校は男女別学だったが、男子校の方がレベルの高い大学へ進学率が高いのはなぜですか

具体的記述に見られた事例の分類

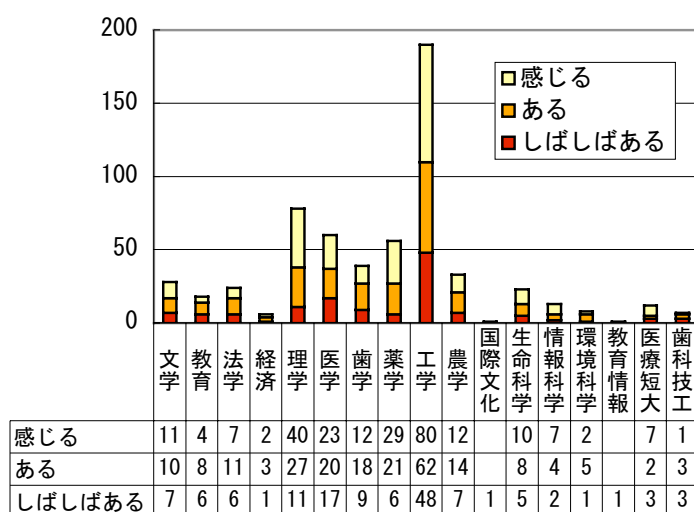
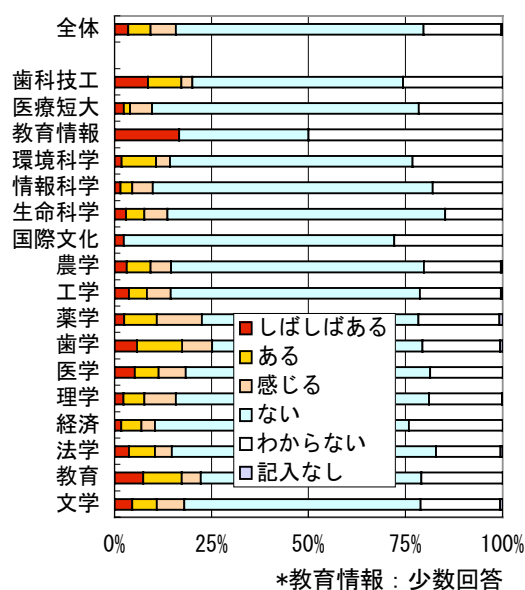


- *父が男尊女卑で、自分に対してと母や姉に対しての態度が違う
- *妹だけ門限有り
- *家庭での躰
- *男の子なのだからというふうにならなくてはと言われていた
- *男らしくせよと言われた
- *男ならば…という押し付け的な物言い
- *「男のくせに弱っちい」と言葉で罵倒された
- *祖母に「女なのだから」という言葉付きで「こうしなければならない」と教えられた
- *母親に勉強に励むより家事手伝いをするようすすめられた
- *家庭で女の子だから、食事の用意を手伝うのはあたりまえ
- *女なのだから家事をやれと言われた
- *女子なのだから、早く結婚した方が…と言われた
- *親戚が集まった時などに、女性だけが食事の準備などをした
- *祖母の家に帰省すると家事は女の子だけがやらされた
- *家事手伝いは女性がやる。男は仕事を変えないで一筋であるべき
- *家事の手伝いの要請の回数・内容を兄・弟と比較して
- *きつい仕事は男に回され、女は女と言う理由できついことをしなくなる
- *出席番号はいつも男子が最初だった
- *男子校と女子校
- *高校の合格者のボーダーが女の子の方が高い
- *男女別の授業体制があった
- *中学での科目。3年のとき女子が家庭科、男子が技術だった
- *何でも男子が先、女子が後だった
- *男女の制服について
- *高校そのものが女子に対して閉鎖的だと感じた
- *男子高だったので、応援歌に男尊女卑の風潮が色濃く残っていた
- *男女でマラソンの距離が違っていた
- *高校の授業中の私語で「男のくせにへちゃくちゃしゃべるな」と女の先生に言われた
- *声の高さからすれば女のパートを唄ってもよいのに、むりやり低いパートを唄わされた
- *小・中学校時代、生徒指導（ケンカ・いじめの処理）で女子が不当に優遇されていた
- *そうじを女子がさぼったとき許されていたし、女の子は泣くとたいいていのことは許された
- *小学校で男女間のいさかいは理由もきかれずに男子が怒られた
- *小学校の時、女子生徒ばかりひいきする男性教師がいた。男子生徒に理不尽なことばかり言う
- *担任の先生が、女性にやさしく、男性にきびしかった
- *中学時代の通知票の評定は女子の方が高い傾向が見られ（試験の結果が同じでも）、当時は差別と感じた。
今思えば、女子の方が真面目に取り組んでいたのだから当然の事だと思う
- *男の先生が女の子には成績5をつけ男にはてきとうだった
- *女の子という理由のみで成績がAの科目があった
- *中学校の部活は、女子のほうが悪しくなかった。男の先生は女子だけにやさしく接する
- *男女の間で課せられるノルマが異なり、女性の方が楽なノルマしか与えられない傾向がある
- *男という理由で重い荷物を持たされた
- *普段は先生も女子生徒も男女平等を唱えていたにもかかわらず、3kの仕事は男子だけがやらされた
- *何においても男の先生は男女差別を意識するあまり、女性を優先していると感じた
- *高校生活は女子の方が楽しい事をたくさんしていた。間違いない
- *作業をしているときや役職を決めのとき
- *男はごみすて、女は学級日誌書き
- *男子は教室で着替えて、女子は更衣室で着替えたかった
- *部活の指導において常に男子学生と女子学生とで扱いが違う
- *進路指導ではなかったが、中学校のとき体育祭のためのはちまきを女子が男子の分まで縫わなければならなかった
- *中学の時、男女共に委員長が存在したが、女子委員長の方が雑用を担任から、よく頼まれていた
- *担任が雑談の中でたびたび女性差別的言葉を発した
- *男女別の色使い「らしさ」の要求
- *日常生活の場面で。公より私の方が多い
- *差別というよりは区別。扱い方、接し方、態度が違う
- *年配の人や一部の友人（特に男）の発言の中に差別的なものがみうけられることがある
- *体重を聞いたらおこられた
- *肌が白いからといって「女の子のようだ」と言われた。何か、性差別めいたものを感じた
- *家庭での役割分担、中・高での生徒会役員等
- *家庭でも卒業校でもあらゆる場面で感じたことがある

2a. 東北大学において男女差別の経験（授業、クラブ活動など）がありますか、または差別を感じることはありませんか？



	男性	女性
少しはある	88	46
ある	138	77
感じる	160	87



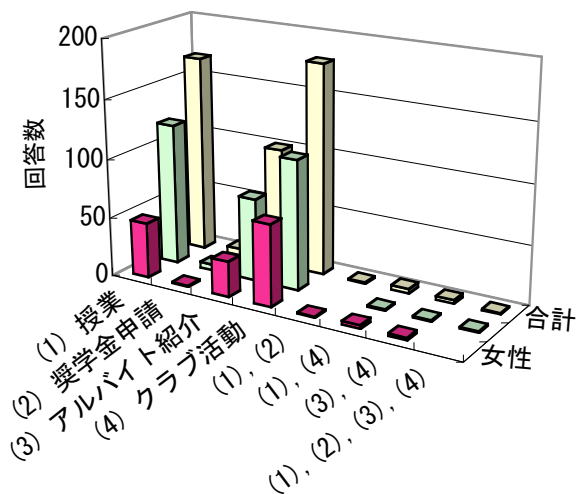
感じる	11	4	7	2	40	23	12	29	80	12	10	7	2	7	1
ある	10	8	11	3	27	20	18	21	62	14	8	4	5	2	3
少しはある	7	6	6	1	11	17	9	6	48	7	1	5	2	1	3

*教育情報：少数回答

2b. 前記質問で「ある、感じる」とお答えの場合、以下から選ぶ、ないし具体的に記述してください。

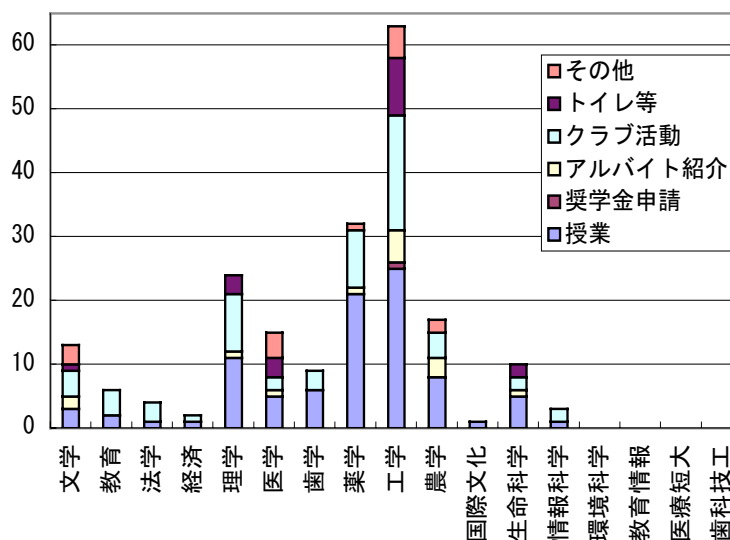
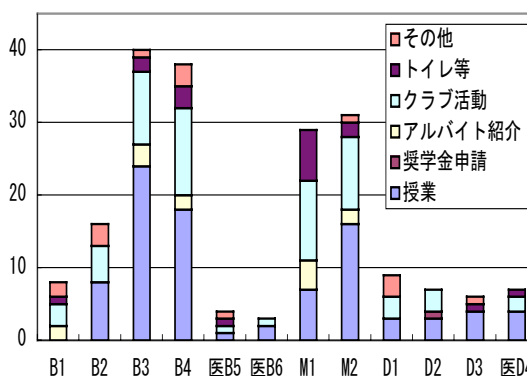
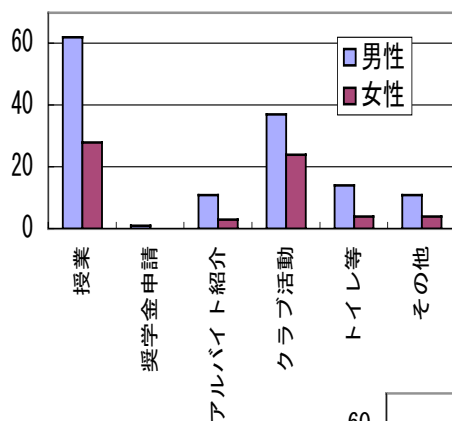
(1) 授業 (2) 奨学金申請関係 (3) アルバイト紹介 (4) クラブ活動

	男性	女性
(1) 授業	120	47
(2) 奨学金申請	5	1
(3) アルバイト紹介	70	30
(4) クラブ活動	110	69
(1),(2)		1
(1),(4)	1	3
(3),(4)	1	2
(1),(2),(3),(4)	1	



具体的記述（記述数：211件）

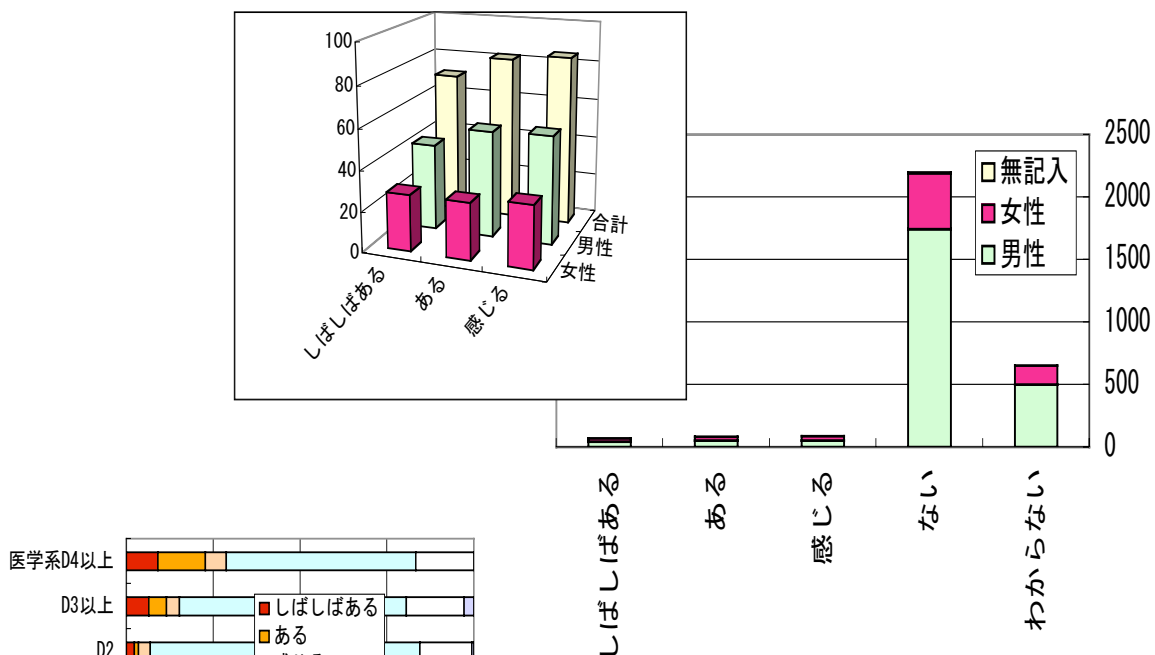
記述された事例の分類



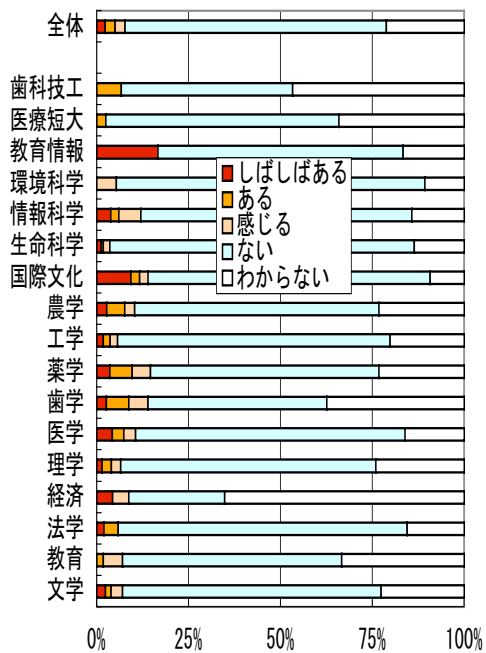
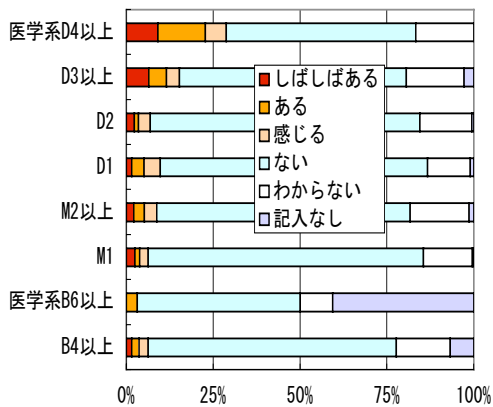
具体的記述例

- *ある先生の授業で女性だけに特別単位をあげていた。男性にはなかった
- *ある教授が単位の習得で女性には、やさしくするといった
- *ある授業において男性が遅刻して入ってきた時には厳しく注意したのに、女性が遅刻してきても注意をしなかった
- *自主ゼミの様な活動で顧問の教官が女子学生に対しては真剣に指導しない。また、差別的発言・行動をにおわす
- *英語の履修申し込み時、女性は優先的に受け入れられた
- *T Aが基本的に女性相手には丁寧なのに対し、男性相手には粗雑(川内)
- *教授が女生徒には親切。扱い方が違う
- *質問の時の教授の受け答え
- *女性にばかり質問する
- *数学科の教官。女性にばかり回答を求め「答えたら5点やる」と言った。セクハラ 川内の化学実験のT A。質問しても男にたいしては「分からない」女に対してやたら親切。特定の女性につきまとい合コンに誘っていた。セクハラ
- * * * *教授の講義。異様に女子学生をひいきする
- *1年の時テニスの授業で先生が女につきっきりで男は放置された
- *ゴルフの授業の際、女性の方にずっと教官が行っていた。私と同じグループ
- *スポーツAの人数の上限が男女別に定められている
- *体育の選択科目は女子優先で決められていた記憶がある
- *インターショップ配属先決め。工明会運動会の「ミス工明会」
- *研究室配属の際、教授が「女性は2名まで」と言った
- *研究室配属の際に1研究室あたりの女性の定員がほぼ決まっていた
- *「女は俺の研究室に来るな」的な発言をした教授がいた
- *女は駄目だ、男じゃなきゃダメだというような発言
- *某教授、あきらかな差別発言多い
- *「男なのだからがんばれ」と教授から言われました
- *テストの過去問やレポートの回答が女性によく集まる気がする
- *友人・先輩・後輩から感じることもある
- *卒論のプレゼント等で教授などの対応がにこやかだったりすると、周りの男子学生に「女に優しい、あの先生は」と発言された。プレゼントや受け答えを練習したことを彼らは思いつかなかったのだろうか？私も実際はどうか分からないが練習した分くやしかった
- *例えば出席簿の備考の欄に女性だけ「女」と明記されているが男性の方にはそれはなく空欄であったこと
- *健康診断の際に、男性の人数が女性より、はるかに多いからと言って、男性が終わるまで、かなり待たされた。(X線)
- *女性の教授が少なすぎる。男女別学でなければ男が駄目になるという男がいる
- *女性にしかできない仕事なのに男女募集と書いてある。女性の方が時給は相対的に高い
- *女性の方が高収入低労働のバイトに当たりやすい
- *国家試験の監督のバイトをしようと電話をかけたら、「15キロ以上の荷物を運ぶ作業もあるので」と断られてしまった。受付とお茶くみのバイト募集の紙に女子のみと書いて、修正液で消してあった
- *男女共に出来る事が男のみ、又は女のみと限定
- *男性限定、女性限定という募集がまだ多い
- *電話しても何回も断われたが、女の子はOK
- *校友会は男子の方が人数は多いので女子は男子のおまけになってしまう
- *以前所属していたサークルは男性優位の傾向が非常に強く、能力がある人でも女性というだけで地位を与えられないことが多かった
- *男女合同のサークルなのに部長・副部長は男のみ。会計は女
- *部の目標や練習計画が女子選手を考慮に入れて立てられていない
- *運動部では男女の体力差を考慮せざるをえず、練習内容や参加の有無について差別化をはかる場合が多い、結果、発言権などに差が出やすい
- *「これだから女は」と失敗やミスに対して「女性」であることを強調された
- *「女子はね～そこにいだけで華があるのだよ。男子の価値はね」的発言
- *上の人たちが女性ばかりを優遇し、男性には見向きもしないサークルがあった
- *女の子は仲間に入れてくれない。「女の子らしくしろ」と言われる。黒髪やスカートを勧められる
- *サークル内でのセクハラ
- *親善試合で女子だけが、男子の試合のハーフタイムにダンスを披露すること
- *他学部のソフトボール大会を見に行ったとき、女性が打席に入ると「女には打てないぞ」等のヤジが飛んでいた
- *顧問先生の対応
- *女子寮が少ない。(かといって男子寮を減らせというわけではない)
- *女性用施設が足りない
- *男子更衣室、トイレは外からまるみえ
- *トイレが男子のしかない階がある
- *研究棟(具体的には通研)に女子トイレがほとんどない。工学系に女はいないとの偏見を感じる
- *学食の雰囲気は女性が入りにくい
- *鉄道の女性専用車両
- *レディースデー企画のもの
- *学校における活動すべてで大小を問わず感じる

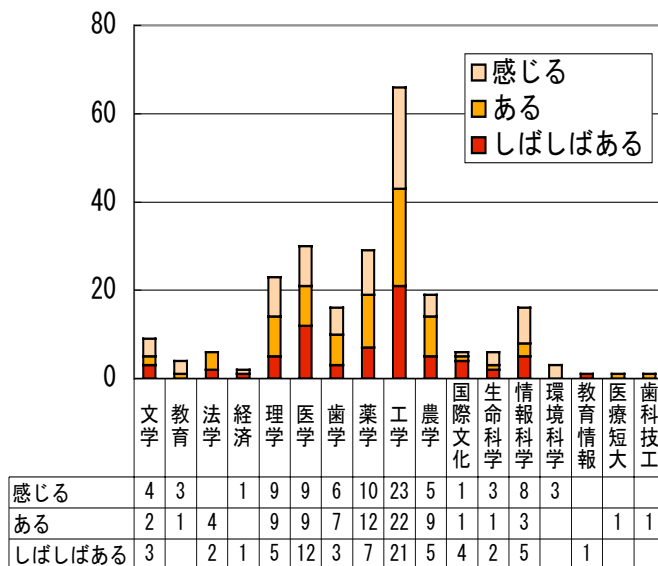
3a. 研究室（又はゼミナール）所属の方：研究室（又はゼミナール）で男女差別がありますか、それを感じることがありますか？



	男性	女性
しばしばある	43	28
ある	53	28
感じる	54	31



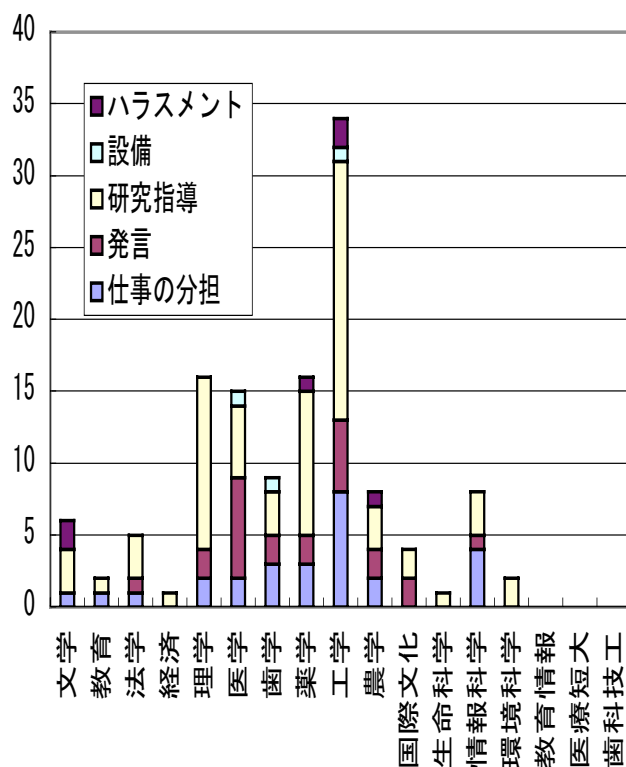
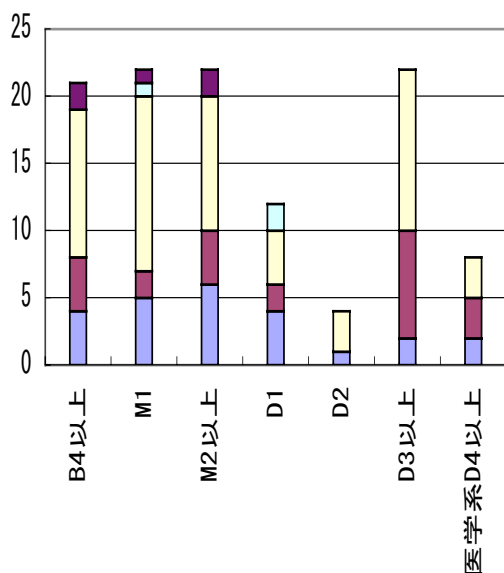
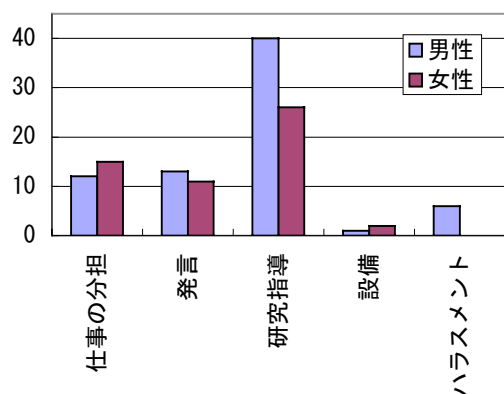
* 教育情報：少数回答



3b. 前記質問で「ある、感じる」とお答えの場合、具体的に記述して下さい。

具体的記述（記述件数：141件）

記述された事例の分類



具体的記述例

研究室での仕事の分担、決定に関して

- *イベント準備などの役割分担で
- *お茶くみ、洗い物、整理整頓、生協への買い物など
- *合宿のとき、ごはんを用意するのは女だった
- *荷物をもたされる
- *飲み会などの準備
- *会の受付を女子学生に依頼する点
- *研究室に配属された当初、来客にお茶を入れたりするよう指導を受けるのはいつも女子だった
- *差別というより区別かもしれないが、特に飲み会や、加片付け、などの際に男女別の役割が決まっているような気がする
- *面倒な雑用などが女性には当たらない
- *夜遅くまでかかることはやらせない
- *女子だからと言って事務的な仕事（そうじ等）をまかされる
- *来客へのお茶出しや礼状書きなどは女性にまかされる
- *医局内の役職

研究室での言葉使いや差別発言に関して

- *「女だから」「…のくせに」「男だから」「…くせに」という発言がある
- *「女だから（なのに）…」と言われた事がある
- *「女子高生は…」とか女子学生を「～ちゃん」と言われるのは、女性からすると不愉快差別されていると感じる
- *「男だったら…ぐらい」みたいな発言も差別ではないかと思う
- *あえて旧姓で呼ぶのを耳にする
- *研究室で交わされるさりげない言葉遣いなどの認めるもの
- *女だからこうしなくてはいけない、もしくは女だからできないと日常的に言われている
- *女は所詮…とか女はこういう生き物だと言われた
- *女性に「お前は結婚したいか？学位ほしいか？どっちだ？」と尋ねる教官の存在…
- *飲み会のときに女性は家に入るべきだ、とか言う話を聞いた
- *研究室の教官から女性に対する発言での差別や、研究室紹介のオープンキャンパスで女性の見学者にばかり声をかけるところ
- *女は家庭に入るべき、女は男を立てるべき、等々の話をされる
- *女性ということで感情的になりやすいと言われる。また、女性ということで甘えられる
- *女性を軽視するような発言をする人が見受けられる
- *信じられない女性差別発言が多すぎる

研究指導に関して

- *女性の方が丁寧、親切に研究の指導を受けられる。男性の方がアカデミックハラスメントを受けやすい
- *女性の方に評価が甘くなる
- *女性に対して少し優しい、男性には厳しい
- *女性であるという事で良くも悪くも特別視される
- *女子優先を感じる。教授の扱いもいい
- *厳しさ半減してくれる
- *教授が女性に優しくったりする
- *どう考えても教官の態度が男に対して雑
- *ゼミ中特定の性を優遇した様な態度をとられる
- *初期指導において、男性には厳しく、女性にはやさしく接する者がいる（男性の先輩）
- *真面目にやっている男性が怒られ、何もしていない女性は甘やかされる
- *女性が優位に立たされることが多い気がする（逆差別か）
- *女性の少ない学部ではあからさまに態度の違う職員が多い
- *男子学生は先輩からの扱われ方が何故か過酷
- *教授が女に甘い、何でも買う、男は雑用ばかり
- *男性の方が冷遇、女性は優遇されているような気がする
- *男子学生にしか指導しない女性教官がいる、男子学生、女子学生への態度が違う
- *毎日様子を見に来る教授の場合では、全く態度が違う女性の場合は非常にやさしく、男性の場合は大激怒の場合もよくある
- *先生の名前の覚える早さが違う
- *女の人が代表的な地位につくのを嫌がる
- *女はどうせ～だからという意識をもって接しているのが、肌で分かったとき
- *テーマの決定、進路の決定など、将来性がないものとして扱われやすい
- *女性の研究職への就職に関して
- *研究室決定時女性人数の制限がある
- *研究室を決める時に、1つの研究室に女性が2人までしか入れないのは差別だと思う
- *研究できる時間に対して女性は制限があること
- *女性はいずれ結婚、出産等の理由で辞めるだろうという前提がいつもあるように感じる
- *先輩が進学より結婚をすすめられた
- *男子学生と違って出来なくてもいい前提を感じる時がある。男女の差を認識してくれていることはありがたいが男女の違いを生かすことと、共に目標が個々として同じの時に、戸惑うこともあった
- *男性の仕事を基本的に信用し、女性の仕事を疑わしいと思うこと
- *男性側が「女にはわからないだろう」という態度を取る。但し、女性側も「男には分からない」という態度を取り返す
- *男女ではなく、生徒として見てほしい

設備に関して

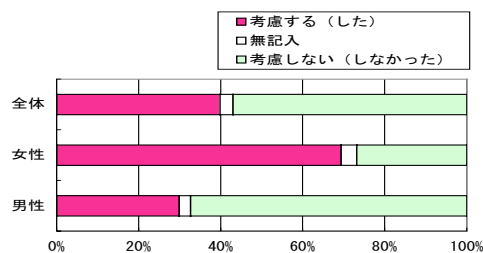
- *女のいる部屋で着替えをする
- *女子用更衣室がない、そのことでかえって男性に気をつかわせていることにもなっていると思います

ハラスメントに関して

- *後輩の男の子は教官にいじめられて可愛そう
- *それよりも、アカデミックハラスメントの方がひどいです。最悪です。助けて欲しいです
- *自分は男なので大丈夫でしたが、女子学生はセクハラを受けていて大変だと思いました
- *研究室所属の女性に対しセクハラに当たると思われる発言が見られる
- *事務補佐員に対する教授のセクハラ行為学生に対する教授のパクハラ行為それを黙認せざるを得ない助教授と助手・学生
- *というか、セクハラは必ずある

IV. 就職・進学について

1a. 今後の進路決定において、男女差別の有無や性別を考えたことがありますか？または実際に進路決定の際に、男女差別や性差を考慮しましたか？

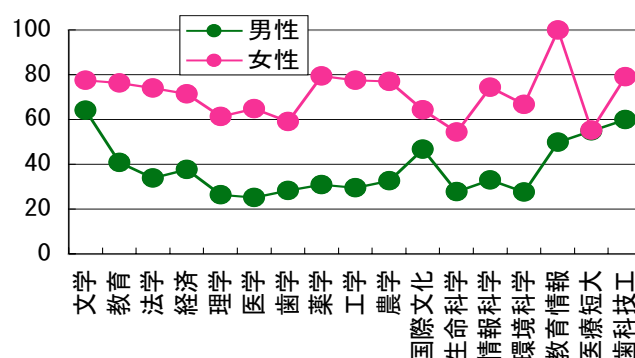
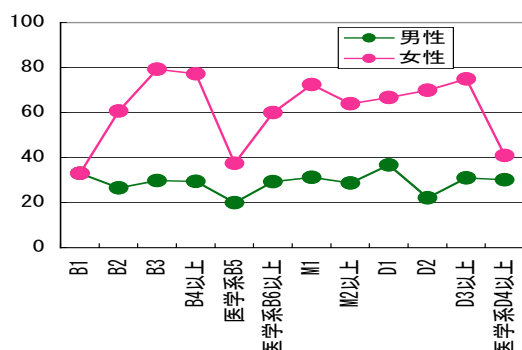


考慮する (した)

全体 : 39.9%

男性 : 29.9%

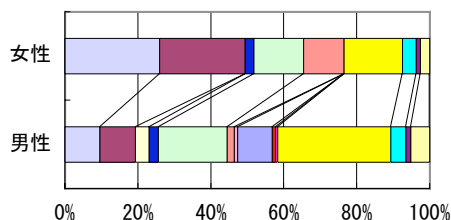
女性 : 69.4%



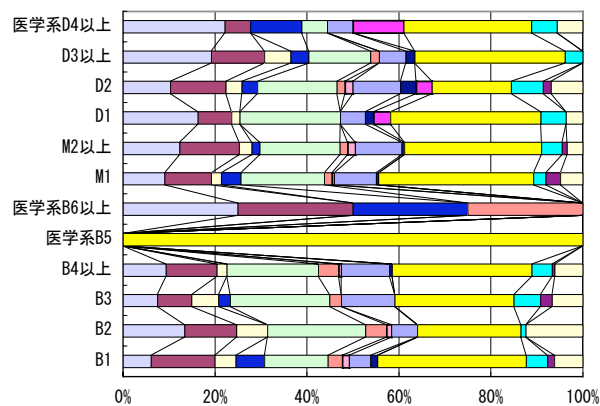
1b. 「考慮しない (しなかった)」とお答えの場合、具体的に理由を記述してください。

具体的記述 (記述件数 : 1019件)
男性 : 961, 女性 : 81

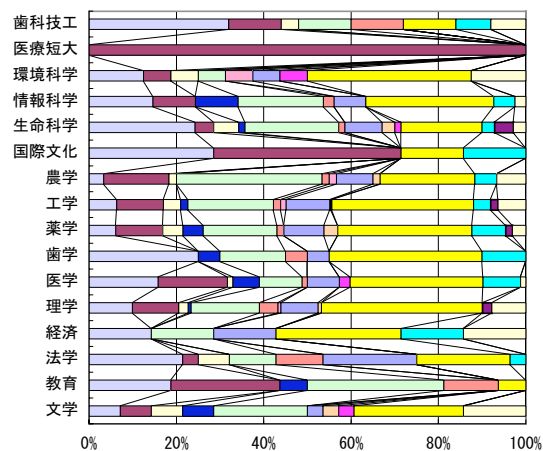
記述された理由の分類



- 選択分野では差別はない
- 自分の希望に従う
- 能力・実力次第と考える
- どうしようもない
- 進路決定に男女差別は関係しない
- 男女差別がなくなりつつある
- 男女差別をしない
- 男女差別で不利益にならない
- 男女の区別は当然
- 決定権は先方
- 男女差別の問題を意識せず
- 特になし
- 質問が理解できず
- その他



* 医B5、医B6以上、医D4以上 : 少数回答



* 経済、国際文化、医療短大 : 少数回答

具体的理由例

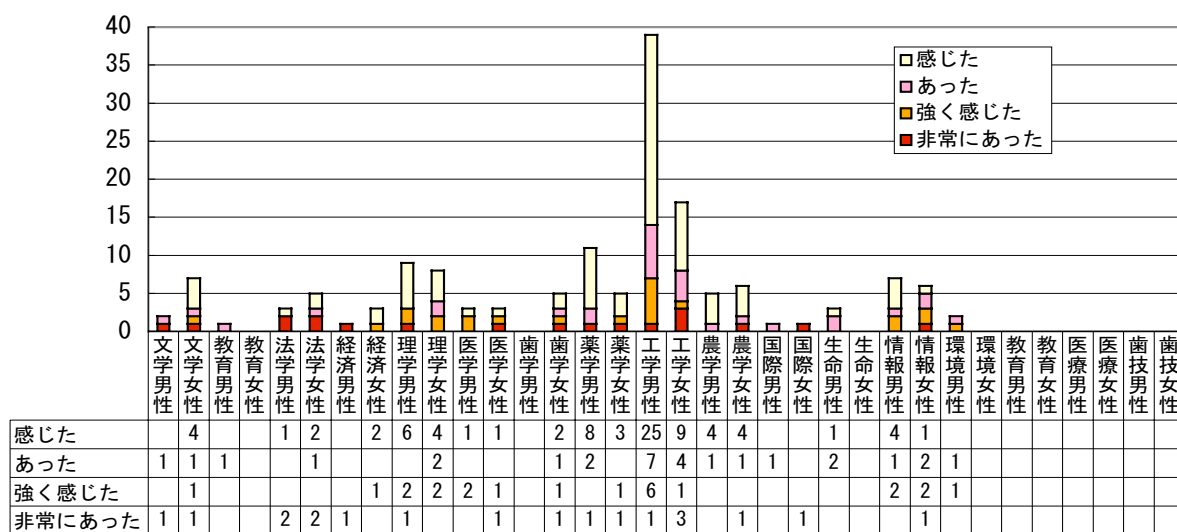
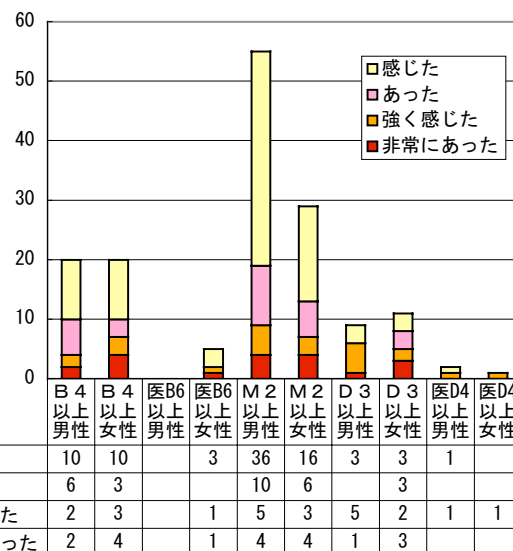
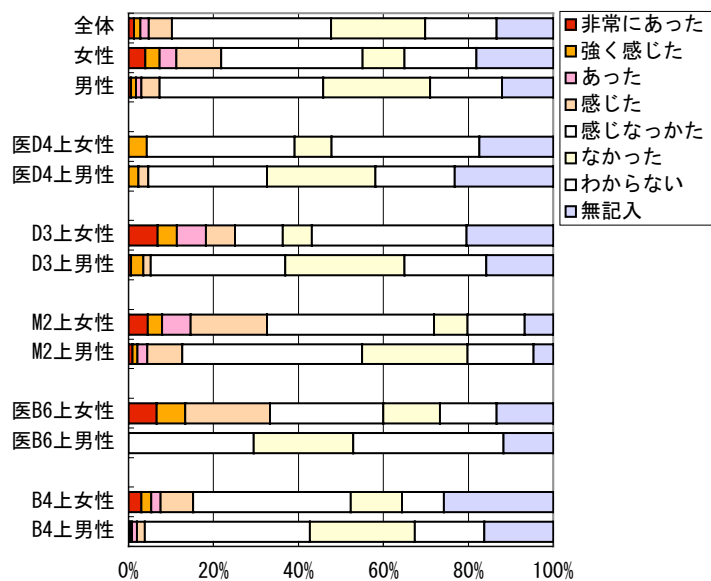
- *現在の分野において性別の違いによる適正の違いがあるとは思えない為
- *自分の専門分野は能力至上主義だと思っているため
- *さすがに男女共同参画を呼びかける側の国家公務員には差別はないと思うので
- *現在の希望が研究職なので、その中で性別を考慮することはないと思っているから
- *自分の学部の進路は他部と比べて性差はあまりないと思う
- *法曹関係には差別がないと信じている
- *理系ならば、より実力主義で差別は少ないと考えた
- *技術職なので性別があまり問われなかった
- *あらゆる意味で「工学部」が差別の対象になるとは考えられない
- *情報系は男女共、職場における差はほとんどないと思います
- *医療職はこのようなことが、問題となる職種ではない
- *看護師の世界は女性ばかりなので
- *社員の男女比が1対1で、会長が女性であったため意識しなかった
- *男女差別を考える前に資格のある職業を選ぼうと思った。そうすればずっと働けるだろうと考えた
- *今まで男性と同じ事をやってきた。この先もそうなるだけだと思ったから
- *性別に関係なく、自分の事は自分で決めているから
- *夢の実現の前には大した問題ではない
- *自分の能力を生かせる進路を選んだから
- *そんなことを考えていたら自分のしたいことをがまんしなければいけないと思い、あえて考慮しません
- *たとえ差別があっても自分のやりたいことをやりたい
- *性別に関係無く、私は私であるから
- *男女平等だし、実力があれば関係ないと思うから
- *ライバルにはかわりないから
- *性別より能力でしょ。今の時代は
- *男女といった性別に依存しない部分でより客観的に総合的に評価すべき（されるべき）だと思う
- *周囲の異性と能力等において違いを感じないから
- *だめだったらそれまで
- *差別あってもたたかう
- *どこでも多かれ少なかれ男女差別はあると思ったので
- *してもしかたないので。性別は変えられないので
- *気にしないようにしてきたから
- *考慮する必要性がない。つまり性差が決定の重要な因子となるようには思えない
- *なぜ進路に差別を考慮せにやいかんのじゃ！
- *現在ではだいぶ改善されつつあるので、また「女性だから」と言われるのが嫌だから
- *社会でも男女雇用機会均等法などにより男女差別は少なくなってきていると思うから
- *「女性是不利」との流言があった
- *ちがうのはあたりまえだし、自分はそのことに対して、必要以上の差別をしているとは思わない
- *平等は有り得ない
- *男中心社会というものは女性の支えがあつてはじめて成立するものであり、その意味で女性は太陽だと思うしね。またそれでいいのでは
- *逆にアフーマティブアクションにより、女性が優遇されないかが気がかりである
- *女性差別はあっても、男性差別というのはほとんど聞いたことがないので
- *まだまだ男社会が続くと思う日本でその必要性を感じないから
- *正直、男であるからかもしれないが、現代社会に性差を感じない
- *進路決定に男女差別は大いにあると思うが、私は男なので考慮の必要は（自分が差別によって不利になることは）無いと考える。女性の立場ならば全く異なる意見だと思う
- *採用する側の問題だから
- *考えたことがなかったので理由といわれても困ります
- *実際にその現状を目の当たりにしないと、実感がわかない部分がある
- *考慮するほどの切実な問題に出くわしたことがない。日本はそれほど住みにくくない
- *どうでもよい
- *特になし
- *質問の意味がよく分からない
- *差別を考慮すること自体差別することになりそうだから。今まで特に差別を感じていないので

1c. 考慮する（した）と回答した方が記した理由（28件）の例

- *自分の雇用主や上司が年配の男性である可能性が大きいし、結婚後の仕事についても、自分が家のことをやるようになる可能性が大きいので、仕事選びについて考慮しないといけな
- *男女差別の有るところでは自分のやりたいことがのびのびとやることができないと思うので考慮し、男女差別のないところに進路を決めたい
- *産休をもらえる職業かどうか。一生働いていたいので女性にとって条件の良いところに行きます

2a.最終学年の方：進学・就職試験において男女差別を受けましたか、または感じましたか？

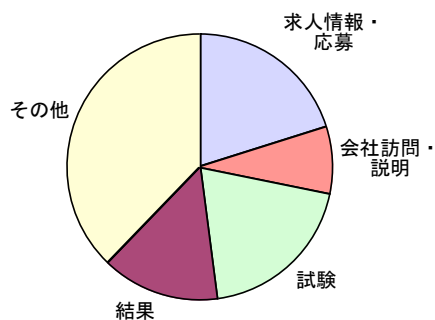
回答数：1490



2b. 前記質問で「あった、感じた」と答えた方の具体的記述

記述回答数：130件

具体的記述の分類

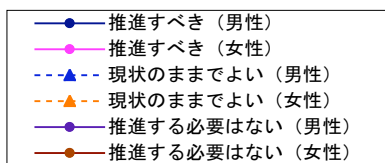
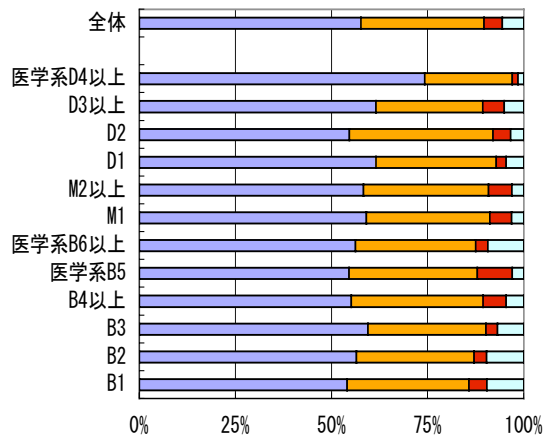
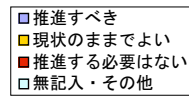
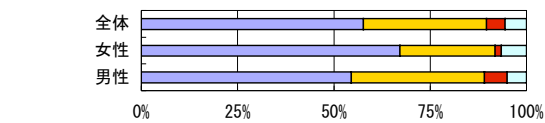


記述例

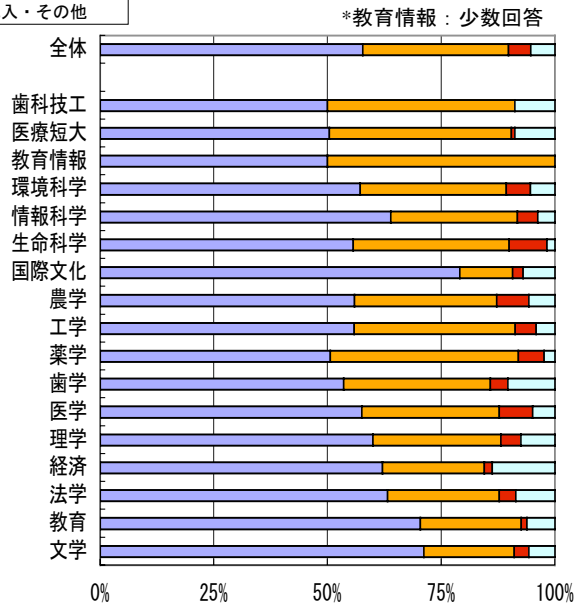
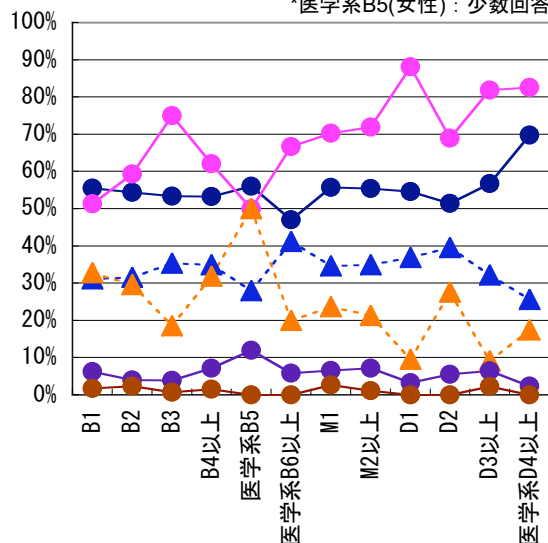
- *男子志望者への優先連絡
- *送付書類の量、電話の頻度
- *男性は総合職、女性は一般職という枠組
- *男性は一般職に応募しても、取り上げられない
- *女性は募集しないという企業があったため
- *「男子のみ」という求人がかなり多かった
- *面接試験を受けさせてくれる会社が非常に少ない
- *勤務地の限定を行う企業があった
- *ゼネコンのような企業に女性が応募する事はできなかった
- *まだ女性を受け入れる体制の整っていない企業もあった
- *ゼネコン関係やいくつかの職種で女性の採用を制限しているのが実状。適性もあり難しいが、海外を主に扱う職種では宗教上の理由から仕事に支障をきたすものがあった
- *工学系ではやはり女子に対する門戸が狭いと思った
- *男の人より選択の巾が少ない感じを受けた
- *個人の能力より優先して性別による判断がなされている印象を説明会や面接などで受けた
- *多くの会社説明会、試験で「女性には厳しいかもしれません」「女性はこの職場にはほとんどいません」などと言われた
- *仕事の大変さの説明で「女性でも…だから大丈夫」という説明がとにかく多い。こういう仕事だから女性が必要というわけではないけど、覚悟が必要ですよという説明があった
- *表向きは差別を出していないが、なんとなく差別されている気がした
- *採用において女性枠があることが明確に感じられた
- *「結婚したら仕事やめますか」「女はすぐやめるから（あてにならない）」と面接で言われた
- *（女性だから家庭を大事にするという考えもあるだろう）と言われた。女性でも男性でも家庭を持ったらそれを大事するのは同じではないかと感じた
- *就職試験において依然として男性有利と感じる。面接で一人暮らしや結婚に関する質問をされた
- *面接官はほとんど男性であった
- *面接のとき「女の子」と連発された
- *育児休暇は女性がとるものと考えられていることや、女性は力がない、途中でやめるからとらないと断られることが度々あった
- *最終面接の時、隣に座っていた可愛い女の子にばかり質問がいき、自分への質問がなく、質問ではなく考え方を否定されただけで終わった
- *女子学生の皆さんは結婚、出産すると退職もうしくは休職することが採用前から明らかと決め付けて企業の方が敬遠している感じを受けた。私は男性なのでその点で特に不利な感じは受けなかった。一緒に出席していた女の学生さんがかなり腹を立てていた
- *女性はね…と言われ、男性との差を感じた
- *面接での男女の対応の差
- *女の研究者はいらないと言われた
- *開業医への就職の際、女性はあまりとりたくないと言われた
- *教員採用試験でも高等学校教員などは男性を好む感じがしましたし、女性だとなめられやすいのですが、あなたはどうか？と聞かれたりもした
- *4年に進級するときの研究室へのふりわけの決定の際に男女比が問題になり女学生は院に進まないから多いと困るというようなことをきいた
- *女性ということで期待されていないことがはっきりわかった
- *ある会社で、内定者を並べてみたら、女性がみな美人ばかりだった、ということがあった
- *内定者40人中女性5人という時点で男性が有利だったように思う
- *某製薬企業では、今年の研究職は男性のみしか採用しなかった。（内定者に聞いたのですが、女子はとらないと言っていたとか…）
- *記述試験の段階で男女比1：2くらいだったのが、次の面接の段階では3：1くらいになっていた
- *内定者の9割は男
- *選考時の男女比と内定者の男女比が著しく異なる
- *就職試験での書類審査で男性の方が有利だった
- *初期の段階では総合職志望の女性がいたにもかかわらず、最終段階では0人となっていた。のみならず、あからさまに志望を一般職にするようすすめていた
- *女子は途中までは選考に残れるが、最終的には採るのはごく少数
- *公平な試験と銘打っているのに、女性の合格率が圧倒的に多い
- *コンビニの夜勤はどうしての男性のみなのか。ナイフでおどされたら男も女も同じではなからうから
- *当然男子の方が就職しやすい。現在の日本の社会構造では
- *同じくらいの成績なら女性の方が落とされる
- *家族を養うだけの経済力を得られる職業につくように両親に言われた。（たぶん男だからだと思う）
- *採用側ではなく女学生に就職に対する甘えがあったと感じた
- *私自身が院に進学して就職するのは不利だと周りの同級生に強く言われた。気にはしませんでしたけど
- *男女共同参画のせいで女が優遇されている
- *茶髪の女性は多いが、男性は認められない雰囲気だった
- *女性というのが一つの個性として相手に映るよう心がけた。男女を平等に見ようとしすぎて違いを無視してきているようにもみえた。男性が子供を生む時代は少なくともまだだろうと感じた

V. 東北大学における男女共同参画について

1a. 東北大学としての男女共同参画の取り組みについて、どのようにお考えですか？

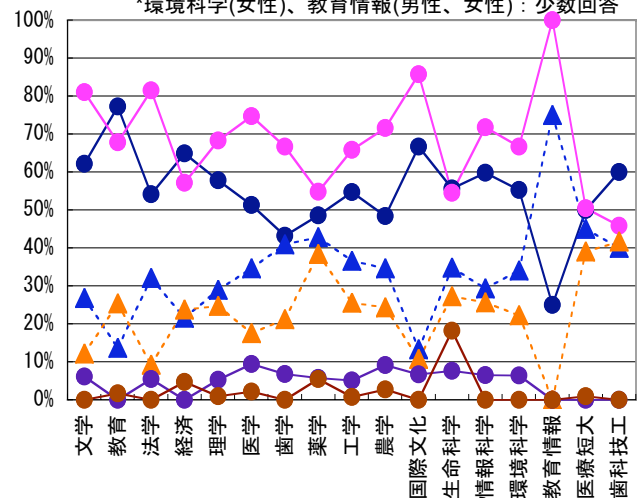


*医学系B5(女性)：少数回答

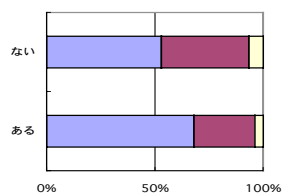


*教育情報：少数回答

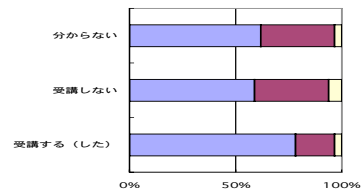
*環境科学(女性)、教育情報(男性、女性)：少数回答



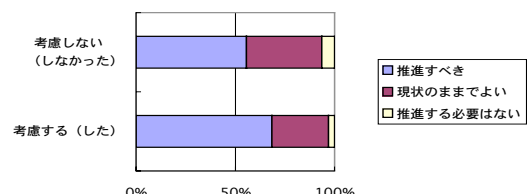
1b. ここでの回答と他の質問に対する回答との関係



(a) 「男女共同参画」を聞いたことがあるか



(b) 「ジェンダー学」を受講する (した) か



(c) 進路決定に男女差別を考慮する (した) か

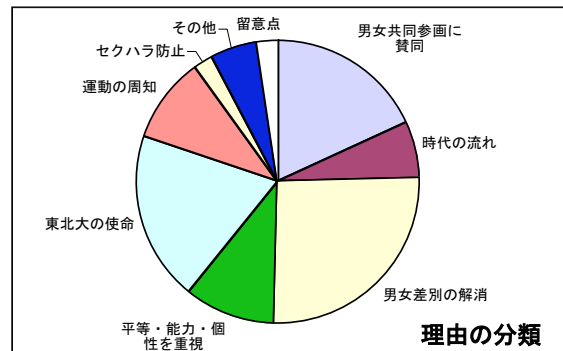
1c. 「推進すべきである」と答えた方の記述理由

(記述数：1106件)

理由の分類

記述された理由の例

- *現状は悲慘であるので
- *いざという時の安心感がほしい
- *性差を互いに尊重するという意味で賛成
- *「それぞれの個性を発揮できる社会を目指す」のに共感をもつから
- *すくなくとも両性がわかりあおうとする努力はすべき。今は男が考えなさすぎ
- *無駄でも議論して無駄だとわかった方が質は高く、無駄でない場合はやらなければいつまでも解決されないため
- *時代の経済の流れ、子供の教育の流れから男女は同じ仕事をするのではなく、共同で社会を生きるものと思う。考えるチャンスを増やすことが大事である
- *現状において、未だ男女の不合理な差別は消滅していないと思われるから
- *ジェンダーの問題について無意識に差別を行ってきた男性が積極的に何かを発見することは難しいと思う。女性が積極的に問題提起・主張を行い、それに理解を示す人々で議論の輪を広げていくことが必要だと思う
- *性差は個性であって、それぞれ男性が得意なこと、女性が得意なこと、考え方の違いがあるはず。それをお互いがもっと知って理解するべきだと思う。そういう機会がもっと増えて欲しいと思うので
- *差別のために発揮されぬ能力はもったいない
- *自分は男のせいか、あまり感じないが、女性は肩身の狭い思いをしているかもしれないから
- *性別で何かを諦めることをしてほしくないから
- *男女差別を感じなかったというのではないと違います。なれているからそれを差別ではないと思う人もいるでしょう。やはり推進すべきだと思います
- *女の子がいつらい環境とはどういうものかを知る機会があるべき
- *どうしても家庭をもつとなると女性に不利益が生じる。それを考慮する社会を作してほしい
- *私は男女平等に恵まれているがそうでない人もまだまだたくさんいると思うので
- *女性は男性に仕える者だ、と考えている男性が意外と多いから
- *優秀な人材は性別に関係なく社会へ貢献すべし。理由のない差別は百害あって一利なし
- *男女の区別をしない方が女性の優秀な人材が多く集まる一東北大学から多くの優秀な人材が輩出される
- *男性ばかりの環境は不自然であり、この東北大学の性質が東北大生または東北大卒の男性の女性の扱いの下手さにつながっている。東北大卒（特に理系）の男性が社会に出たとき困らないように女性と接する機会を増やしてあげるべき
- *帝国大学で初めて女性入学を許可したという歴史は誇るべきものだから、その歴史を汚さぬように常に先頭に立って男女共同参画を訴えるべきだと思うから
- *女性学の研究室がきちんと設立されていないし、女性の教授が少ない
- *とくに医学部に産婦人科の女医がもっといるべきであると考えから
- *去年まで所属研究室を決定する際に1研究室に入れる女子の人数が決まっていたが今年から撤廃された。これは大きな一歩だと思うので今後ともこういったことを進めてほしい
- *実学主義を唱え、社会の役に立つ研究をする上で、女性の視点からの研究や取り組みは不可欠。にもかかわらず、女性の研究者は極めて少ない
- *推進しなければ、まともな大学として扱ってもらえない時代とを感じるから
- *若いうちから男女共同参画に対する意識を養わなくては、身につかないから
- *「本当に力のある女性」を育てる必要があるから
- *男女差別は社会に出た後にあるものだと思う、大学にいううちに男女共同参画の意識を高める事は重要
- *社会や家庭では、まだ男女差別が残っていることがあるから、次の社会を担う学生を教育する大学でこういった取り組みは、積極的に行われるべきだと思う
- *M以上になると自分の研究で忙しく、ジェンダー論について知らない人が多いような感じ。知名度が低いのもっと広報活動に力を入れてほしい
- *アンケートで、はじめて取り組みについて知ったので、もっと多くの人に知ってもらう必要がある
- *そういう問題について、考えたり知ったりする機会が増えれば人の意識も変化するというから
- *男女共同参画社会の形成に向けて大学は社会にその考え方や理想像を提供すべきであると考えます
- *男性からは気付かない点などは、意識して女性の声をひろうなどしなくては改善されないため
- *教官の学生や職員に対するセクハラ、パワハラ行為は表面化していないだけで広く行われている。それを徹底的に調べ上げるべき
- *男女共同参画を推進する過程で、教師の学生へのセクハラ学生同士のセクハラの問題に対する意識が高まることを期待しているから
- *少子化が進む上で、これからは女性にもっともっと活躍してもらわねば、日本の発展はありえない
- *女性ばかり、ひいきするのは本当に腹立つから
- *実際にやるべきは女性だけど、そういう機会、場所を与えてあげるべき
- *先輩の方の意識改革が必要
- *男女間で得意な分野には差があるのだから、適材適所となるようにすればよいと思う。その結果男女比に偏りが出るのは仕方ないことだと思う



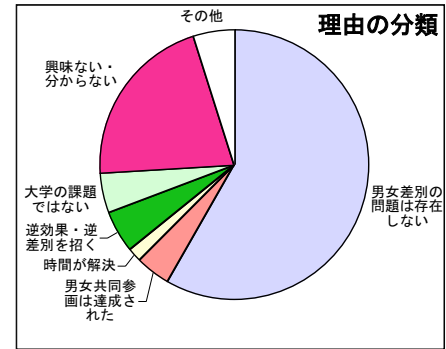
1d. 「現状のままでよい」と答えた方の記述理由

(記述数：588件)

理由の分類

記述された理由の例

- *現状で何が悪いのかよくわからないから
- *あまり大学内で差別があるようには感じないため
- *無理に男女比率を同等にする必要はない、工学部などの学生が男女同率だとすれば不自然だ
- *とくに差別を感じない（周りに女性が少ないというものもある）
- *現状で、女性の進出を積極的に阻むような障害は特にないと思う
- *女性教官が少ないのは教官の絶対数が元々少ないだけであって、差別が行われているからとは思えない
- *元々工業大学だし女性が少ないのはあたりまえ！別に女性に今更特別待遇のようなことをする必要無し
- *工学研究科は元々女性が少ないので男女差別の起きるような環境にない
- *全く男女差別を意識したことがない。本当にあるにか？という気すら…
- *「参画」はすでに十分達成されていると思うので
- *既に高いレベルで取りくまれているから
- *トイレの窓が不透明になったのでよしとする
- *意識の問題なので、ゆっくり浸透していったほしい
- *制度で強制するべきものではなく人や社会の考え方が変わらなくては駄目だから
- *あまりやりすぎると「平等」ではなく「保護」になる。それも差別の一つだと思うから
- *過度に反応して逆効果。個人がしっかりしていれば、そもそもこのような参画活動は必要ないはず
- *大学内に男女差別をあまり感じたことがないので。あまり賞などつくと逆効果ではないですか。そういうものの押しどころに平等があるのでは
- *無理に押し進めて適材が投入されないことが問題だ
- *偽の人権尊重より、男女それぞれの長を生かすべき
- *個人の資質の問題であり大学で進めるという問題ではない
- *個人的には大学は下の B-1, B-2のように「100%正義」、「100%必要」なものだけをやればよいと思う。B-4、B-5は逆におせっかいというか（大学側がやるには）ありがた迷惑の印象を受ける。B-4、B-5は社会的には必要なことだと思うが、学外でやってこそ意味のあるもので大学がやったら押し付けがましくなる。はっきりいって余計なお世話
- *意識の高い人が参加する程度でよい
- *やりたい人がやればよい、自由に
- *もっと女性は頑張りなさい
- *数の問題は重要ではないと思うので
- *推進というより啓蒙すべきでは



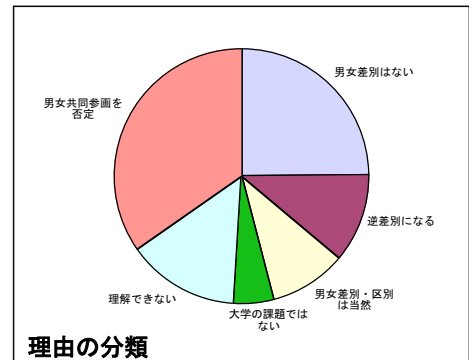
1e. 「推進する必要はない」と答えた方の記述理由

(記述数：133件)

理由の分類

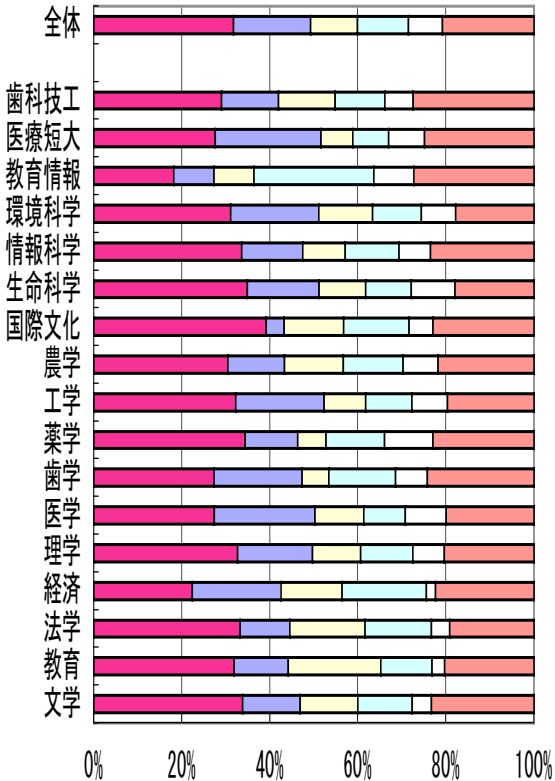
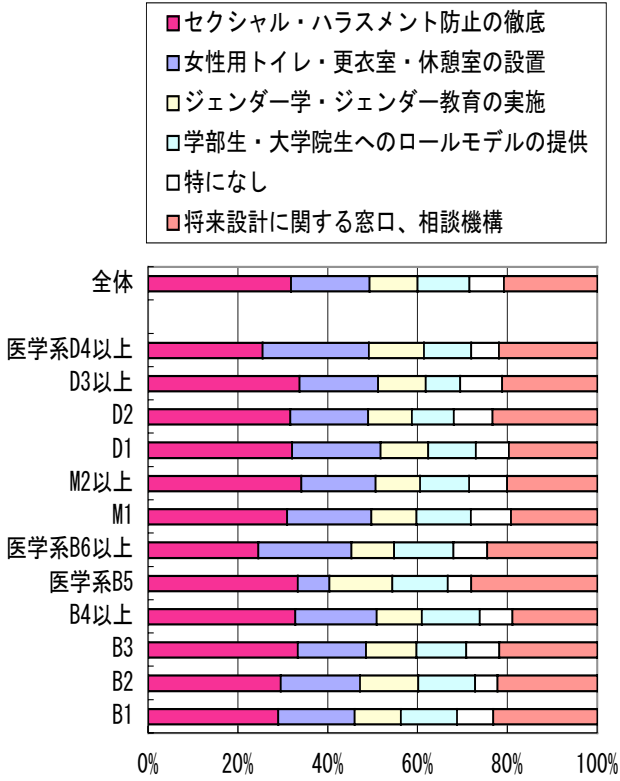
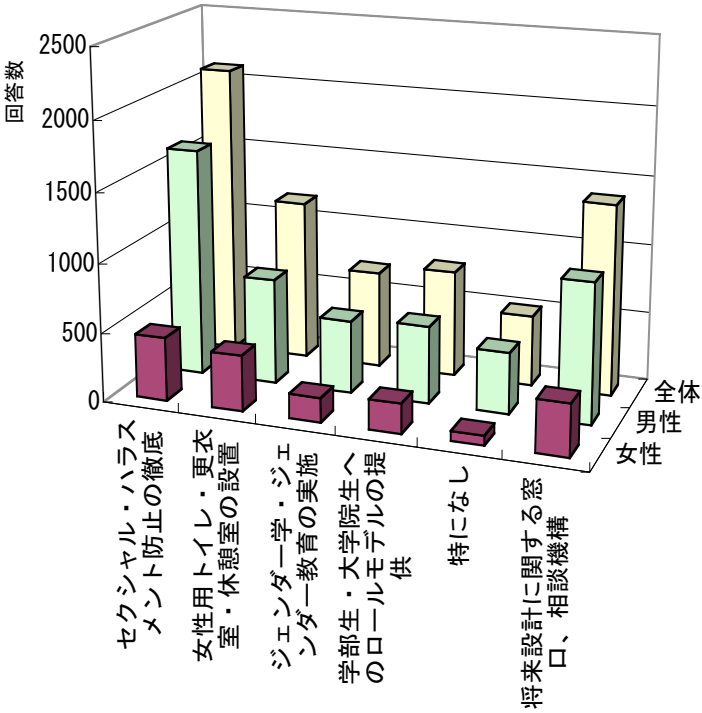
記述された理由の例

- *現状でも女性は十分に能力を発揮しているため
- *今のままで十分。これ以上女性の権利を尊重してどうするつもりか？
- *女性側に一方的に有利な内容になりそうだから
- *女性の地位向上によるデメリットを全く議論していないから
- *現在の取り組みは女性主体の意見に偏っている。多角的に問題に取り組んでいるとはいえないので推進する必要はない
- *これ以上、女性らしさを失ってはいけないから。社会の荒廃、生物学的性差の否定につながる
- *女に学問の必要なし
- *優秀ならば女子も活躍できる。平等にすると男性の立場がなくなる男性優位でいいと思う
- *能力も無い女をわざわざ入れる必要はない。セクハラとかうるさい。能力有るならOK
- *男女平等にトイレなどの数をそろえれば、それ以上の意識改革は必要ないと思う
- *大学は個人の自立的行動の場であり、男女差を理由とする施策よりも個人個人として活躍する場を提供すべきだから
- *アホらし
- *いちいち気にするなかれ、かっこつけるな
- *男女共同参画なんてバカな考えはやめろ
- *面倒臭い、そんなことより図書館のコンピュータを入れ替えてほしい
- *わざわざ委員会なんて作っても何も改善されるとは思えない。金の無駄
- *そのように言うこと自体が男女差別につながるし、男性よりも女性のあまえによって消えることはないと思うから
- *私は今何も男女共同参画について考えずに生活している。これが、一番よい。意識しすぎるとよく分からない方向に進む可能性がある



2a. 男女共同参画促進のために、大学として取り組むべきことは以下のどれだと思いますか。選択肢の中から優先順位の高いものを2つまで選んでください。

	男性	女性
セクシャル・ハラスメント防止の徹底	1646	459
女性用トイレ・更衣室・休憩室の設置	762	402
ジェンダー学・ジェンダー教育の実施	526	175
学部生・大学院生へのロールモデルの提供	557	215
将来設計に関する窓口、相談機構	1006	374
特になし	442	70



2b. 前記質問での具体的記述

(記述件数：263件)

記述内容の分類

記述された内容の分類

具体的記述例

*セクシャルハラスメント防止の徹底は非常に重要であり、その推進は大学を立ち行かせる上で必要不可欠である。しかし大学本来の「教育機関」としての機能を考える際に、それ以上に重要なのはアカデミックハラスメントの防止ではなからうか？

特に研究室という閉鎖的社会において教官自らが率先して派閥を形成し、それに属さない人間を圧迫してそれを是とする様な状況が形成されている現況には、忍耐も限度を超えています。何らかの公的な救済措置を切望します

*セクハラ防止も重要だと思います。だけど、それよりもアカハラの方がひどいです。もう耐えられません。アカデミックハラスメントのアンケートを取るべきだと思います

*セクハラ教授の追放。公に出てないだけでたくさんある、見ていてヒドイ

*セクハラやパワハラ被害に遭った人に対する補償制度もしっかりとすべき、その前にセクハラやパワハラが行われている現状を担当者が把握すべき。又被害者がもっと相談しやすい環境を作り、加害者を権力に屈せずきちんと処分

*人に関して、審査、制裁システムは十分に慎重なものでなければならぬだろう。(現在世間に流布する女尊男卑観念に絶対に排すべきである。痴漢冤罪の多さと男性被害者の権利保全)

*教職員にはセクシャルハラスメントの教育を徹底して行うべきだ。(特に権限を持つ教授クラスの人々)特に、先輩の人にはセクハラを正しく理解していない人がおり、未だに女子学生に対してお茶くみ、コピーなどを強要する傾向がある。また軽いものなら許されると勘違いしているふとどき者もいる。学生の立場上よほどの事がない限り(性的いやがらせなど)セクハラだとは言にくいし、言っても相手にされない事が多い

*校友会運動部に所属していますが、片平体育館に関して言えば、女子更衣室と男子更衣室に差があると思います。広さはある意味どうしようもないと思いますが、シャワーはちょっと…

*女子更衣室がせまい。女子トイレに手洗い乾燥の機械を入れてほしい

*医局に女性用更衣室、カギのあるロッカー、女性用休憩室がとてとても欲しい

*男性にも更衣室、休憩室などない。それに休憩室のように分ける必要がないもので空間を男女でわけることは意識レベルに男女の差を植え付ける結果を招く可能性がある

*更衣室、休憩室を設置するのであれば、男子用女子用共に設置すべきである

*更衣室がないので、すごしにくい。休憩室には男性が多く、入りづらい

*理学部キャンパス等ではトイレが少ないなど、専門へ進むほど差があるため

*女子トイレ1か所につき個室が2つしかないのは少々不便です。男子より回転が遅いので

*男トイレで外からまる見えのところが多いので窓をなんとかしてほしい。同様の着点は女性側にはより配慮していくべき

*普段は利用しないが、工学部の方へ講義を受けに行ったとき、男子トイレと女子トイレが分かれていなくて驚いた

*私のいとこ(女の子)から聞いた話ですが、東北大学のオープンキャンパスできて「女子トイレの汚さと少なさ」で東北大学に来るのを辞めようと言っていたようです。実際、そのいとも東京の私大へ行きました

*歯学部トイレは汚くて臭すぎます。また、医局においては女性用更衣室がなく、その汚く臭いトイレで我慢しなければなりません。各医局とはいいいませんので、せめて Dr. 用更衣室を設けて下さい。この状態もセクハラだと感じます

*高校で文系、理系と分かれた時点で文系が女性、理系が男性の割合が多くなっている。大学から高校への働きかけを行い、このような偏りの原因を突き止めてかいぜんすべきでは

*ジェンダー教育に関しては「教える」のではなく「議論する」形が望ましいと思う。現在ジェンダーと言っても、様々な考えか方があると思われるので

*ジェンダー学とフェミニズムは一致するものではない。毎年、3万人もの自殺者がいて男22000人女8000人ですこれは男の像に縛られた男性が自ら命を絶つのです大切なのはジェンダーバイアス(社会的な性的抑圧)があるということを知ること。その哀腹として「男の仕事」を成し遂げたものです

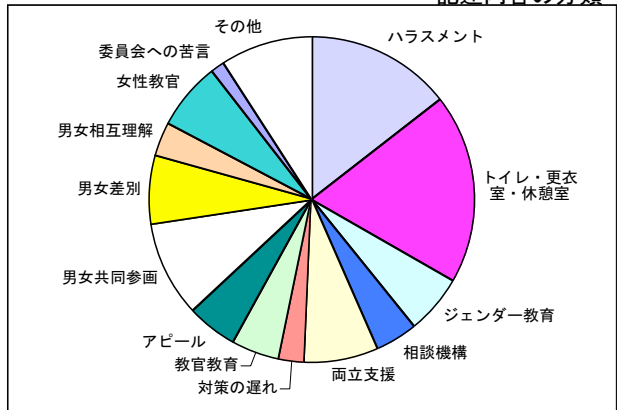
*ジェンダーが教育を推進するのなら、もっと積極的にやって欲しいすくなくとも工学部3年の私がしなかったということはあまり力を入れていないということではないか？こういったところから学部の偏見なんかもうまると思う

*もっと小さい頃からの道徳や社会の風潮を変えなければいけないと思うので、もっとさりげない形で風潮、システムを学内に徐々に浸透させるか、トップダウンで急激に変えるかのどちらかではないか

*相談機構は必要。しかも相談だけではなく、実行力を伴った機構であればよい

*やはり男性教官が多いため、女子学生にとって色々と相談できる環境を整えるべき

*研究生活が長いと将来に対する不安が大きくなる人も多いので、安心感(及び危機感)を与える設備を望みます



- *子供を持つ女性（学生、スタッフ分け隔てなく）が働きやすい環境を整備する 24時間対応の保育室、授乳ルーム。結婚しない若い女性が増えている出生率低下これに Stopをかけるには、家庭や子供を持つ女性や男性にやさしい職場を率先してつくるべき
- *学内保育所の設置
- *女性のための子育て支援も進めてほしい。シングルマザーでも対等に働ける環境を作るなど
- *出産後でも職場復帰しやすい環境のバックアップ
- *まったくダメ。こんな対策じゃ門戸は開かれない。全く間違っている
- *上記のようなことを今更に取り上げること自体意味があるとは思えない。組織内での人事などで暗黙のうちにに行われている差別があるはずでそのようなことを改善すべき
- *学生同士の性差による差別を行うことは少なく影響力も小さい。差別をする者は、教員である。教員特に教授、助教授に現在将来的な常識を徹底的に自覚させるべきである
- *研究室においては、指導教官の認識の差異による格差が依然として存在している様に思われる。また、既婚男性の受け入れは多くみられるものの、既婚女性の受け入れが少ない様に感じる。外部機関との連携により、広く地域での活動が望まれると思う
- *社会全体への性差別撤廃へのアピール
- *分かりやすい資料づくり。学生へのアピール、働きかけを頻繁に行う
- *過度の性差への意識による女性への冷遇をなくすため、社会的地位の高い方々の意識改革が必要
- *一人一人が自分の能力に自信をもつこと
- *まず女性が日常生活で不安や不満を抱かないことが重要で、そういう環境の中で個々人の性別に関する意識レベルを高めていくことが今後必要であるとかんがえているため
- *（日本によくあるような）ジェンダー論を「こうあるべきだ」と「教える」というのではなく「考えさせる」機会を与えるべきである。またセクシュアル・ハラスメントの定義の厳密化を行った上でその防止法を講ずるべきである
- *男女共同参画促進やジェンダーフリーを善と決め付ける事なく、悪い面も含め多面的に議論を行う事が必要である。社会の風潮に追従するだけでは、大正時代に世間に逆らい女子学生を受け入れた東北大学の理念に反するのではないかな？
- *女子大生に特有のものとして、将来への「甘え」がある。職業選択の際に職業に「やりがい」を求める姿だろう。この点男は違う。家族のために、食い扶持を稼がなくてはならない。こうした男の黙認や忍耐の上にしか成立しないような共同参画は不要である
- *社会の中で「男らしく」あること、または「女らしく」あることは、伝統の中でつちかわれてきた文化であり、そのような「区別」はされなければならない。また、「くべつ」までも「差別」と同一視して排除しようとする風潮には同意することはできない
- *女性だけでなく男性への差別（男だとか対応が悪い）もやめてほしい
- *今ふと思ったが、ジェンダーという概念ももう、古いものなのかもしれない。人間の能力差は性別によるものだけではない。お茶汲みが女性のジェンダーに限られているとも思わない。共同生活を営む人間として当然だと思う。（そういう意識を持っていない人は社会性に難があると思う）従ってジェンダー教育の徹底よりも共同生活の営み方について我々はもと学習するべきであると思う
- *発言できるほど勉強していませんが、男性は女性側の現状と心境をちゃんと理解すべき。逆に女性も男性側の心境をできるだけ偏見なく理解することが大切なのでは。討論会などを開いて多くの人の意見を学生や先生が知ることができればよいのでは
- *男女がお互いにすべてを理解する必要もないと思う。隠した、隠されたとかではなく気遣ってもらったと感謝する心をはぐくむ機会があるとありがたいきもする。最近周りの女性を見ていると、男性に溶け込もうと、自分の発言で自分を苦しめているきがする（含む自分）
- *女が男と同じことをする必要はない。それぞれの性別にはそれぞれの役割があっても必要非可決であり尊重すべきことであるという認識を強める。特に女性の家事・育児といった目に見えてお金にならない労働に対する男性の（社会全体の）評価の低さが問題だと思う
- *女性が大学全体でマイノリティーにならないよう根本的な議論が活発になるようにすべき
- *女性がもっと専門職に就くような教育をし、女性の教官が増えれば、差別を感じる人も減るだろう
- *女子教官等の積極的採用
- *このアンケートとること自体、ある意味男女差別といえないだろうか
- *「性差別」という言葉がアンケートの中に多用されていたがそこまでいかなない「ジェンダー」について感じることは多いのでは、と思った。このアンケートが実際どれだけ回収できて、その結果をどう受け止めるのか、非常に疑問。「ジェンダー」という言葉の定義も記載せずに、このようなアンケートをするのは、学生に対して希望を持ちすぎではないだろうか？
- *帰宅するとき構内で（病院）暗くて怖いところがあります。街灯を設置して欲しい
- *東北大学の理系学部を女性が選びやすい環境づくりを進めるべき
- *学生の入学数の男女比をもう少し見直した方が良いのでは？
- *ジェンダー教育以外の問題として、もっと豊かな人間性を養う教育方針を示すべきではないか
- *一般的に東北大には学生の声を聞いてくれる、ないし学生の相談にのってくれるシステムが欠如していると思われる
- *大学の研究の素晴らしさをアピールして女性にも魅力的に映る大学像を構築すべき
- *社会保障上の現存する差別的取扱いや、例えば母子家庭と父子家庭との社会的認識の差異などをともに、今後のあるべき姿について模索することがもとめられる